

平成29年度

青森県すこやか福祉事業団事業報告書

社会福祉法人
青森県すこやか福祉事業団

目 次

第1	事務局	1
第2	障害児入所施設八甲学園	12
第3	養護老人ホーム安生園	25
第4	障害者総合福祉センターなつどまり	38
第5	青森県長寿社会振興センター	65
第6	青森県発達障害者支援センター	70
第7	ライフサポートあおば	73
第8	就労サポートセンターさつき	79
第9	特別養護老人ホームすこやか苑	85
第10	就労サポートセンターはくちょう	95

第1 青森県すこやか福祉事業団事務局

1 概況

平成29年4月からの社会福祉法改正に伴い、社会福祉法人を取り巻く環境は大きく変わり、役員制度の見直しによる経営体制の強化、会計制度の変更や財務状況をはじめとした法人情報の公開の義務化、積極的な地域への貢献など、社会福祉法人に求められる要件が今まで以上に厳しく、複雑化するようになった。

平成29年度は、このような社会福祉法への対応のほか、今後当事業団が持続可能な組織として経営し続けることができるよう、経営の安定化に努めた。

また、持続可能な組織づくりのために必要な「人材」の確保や育成のために、計画的に研修を実施したほか、働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。

(1) 事務局総務課

①社会福祉法改正への対応

当事業団では、平成29年4月1日から施行される改正社会福祉法に向け、早期に取り組みをした。

役員体制については、評議員会や理事会の定数の変更、構成員の変更等を経て、平成29年度は評議員会を2回、理事会は6回開催した。

青森県による指導監査を受検し一部指摘事項は受けたが、新制度への移行処理や法人運営面での大きな指摘事項ではないことから、改正社会福祉法には計画どおりに移行し対応することができた。

②経営安定化の推進

平成29年度当初予算段階では、就労サポートセンターはくちょう開設に関連した利用者調整による大幅な減収や、八甲学園における18歳以上の利用者が児童施設を利用できる経過措置終了に伴う大幅な減収を見込んだことなどから、法人全体の収支差額として19,096千円しか見込むことができず、厳しい経営が予想された。

年度途中で、共同生活援助事業に従事する世話人を全員雇用するために人件費の大幅な増加があったが、最終的には八甲学園における措置児童の増加による増収や、障害支援区分の見直しによる増収等法人全体で取り組みした結果、最終的には事業計画どおり約50,000千円の収支差額が見込めることとなった。

このため「青森県すこやか福祉事業団中期計画」に基づき、今後の施設整備のために必要な積立額(25,000千円)については、目標通り積立することができた。

③給与・職階制度の見直し

ここ数年、単なる人件費削減を目的としたものではなく、努力したものがきちんと評価され、なおかつ多様化するライフスタイルにあった働き方を提案する目的で、給与・職階制度の見直しを検討してきた。

しかし、当初予算編成段階で法人全体の収支状況が不安定な状態が見込まれる中、給料表の見直しを伴う人件費支出分も大きな要素となることから、平成29年度中は実施されず、今後の継続案件となった。

④非正規職員の待遇改善の検討

当事業団では、職員の半数近くが非正規職員である。全国的に福祉業界の人材不足が問題となっているが、ひとたび退職者が出ると、その補充も容易でないのが実状である。

そのため、今後法人として事業を推進していく中で欠かせない存在である非正規職

員が、今後も当事業団で長く働いてもらうことは極めて重要なことである。

国が進める「同一労働・同一賃金」制度に向けた対応や、平成30年度から条件を満たしたものが適用となる「無期雇用制度」など、非正規労働者を巡る労働環境の整備が必要となる中で、当事業団では臨時職員に対してこれまで条件付き支給だった通勤手当を、平成30年度からは正規職員と同様の条件で支給する制度を確立した。

また、無期雇用制度に向けては、新たに対象者を「準職員」として位置づけて、準職員の就業規則の制定や、賃金制度の創設などを行った。

⑤内部体制の強化

近年複雑化する各種制度の理解が、今後の法人運営に与える影響は非常に大きく、これまではこうした制度の理解等については各所属任せであった。

こうした制度等の理解を通して将来の組織運営を担う人材の育成や、内部牽制の強化を目的に「青森県すこやか福祉事業団監査委員会」を創設し、3回の委員会開催のほか、地域別（青森市、平内町）やサービス種別（障害福祉サービス、高齢者福祉サービス）に細分化して8回の部会を開催し、職員が参加しやすい環境づくりと知識の習得に努めた。

(2) 事務局人材育成課

①人材確保

これまでは、学校等へのリクルート活動や企業説明会への参加を中心に当事業団の周知を図ってきたが、より幅広く人材を確保することを目的に東京や仙台などの大都市圏の大学のうち、青森県出身者が在籍している学校を訪問し当事業団の周知を図った。

また、都内にある「あおもり U ターン就職支援センター」を訪問し、青森県へ U ターンして就職を希望する方に対して働きかけをお願いした結果、受験申込につながった。

平成29年度は一般公募試験を2回実施し、受験者数38名中14名が合格した（うち1名は内部職員が一般公募試験を受験したことによる）。

また、内部登用試験では12名が受験し、7名が正職員へ登用となった。

■一般公募試験の実施状況

区分	応募者数	合格者数	備考
一次募集	26人(3)	8人(1)	7月29日、8月5日実施
二次募集	12人	6人	12月16日、12月23日実施

※（ ）は、事業団職員（臨時職員等）で一般職員受験者の数

■内部登用試験の実施状況

区分	応募者数	合格者数	備考
内部登用	12人	7人	10月18日、10月24日実施

②人材育成

青森県介護サービス事業所認証評価制度への認証に向けた取組みとして整備したキャリアパスや、階層別研修、課題別研修の実施などをとおして、資質の向上を図るとともに職責や役割の認識を深めた。

平成29年度は、職員個別の育成計画策定に基づく研修を計画的に実施した（実績等については、別紙「階層別、課題別、専門分野別研修等実績一覧表」参照）。

③職場環境改善

平成28年度に認証を受けた「あおもりワークライフバランス推進企業」制度が平成29年4月1日付で廃止となり、新たに制定される「あおもり働き方改革推進企業」と統合になったことに伴い、新制度の認証を受けるための手続きを行い認証企業となった。

当事業団の女性管理職の割合は全国平均の約半分程度と低いことから、一般事業主行動計画に基づく「女性が管理職として活躍できる雇用環境の整備」への取り組みについて、職場環境改善委員会を開催して検討した。

その中で、女性職員へのアンケート調査を行い、様々な意見聴取を行った。平成29年度中は具体的な施策については決まらなかったが、今後も継続協議することとし、女性が働きやすい職場づくりを進めていく。

2 職員の状況

	事務局長	次長	総務課長	人材育成課長	事務員	臨時事務員	非常勤事務員	計
男	1	1	1	(1)	2	2		7
女						5	1	6
計	1	1	1	(1)	2	7	1	13

※平成30年3月末の人数。理事長、県民福祉プラザ夜間事務補助員を除く。

3 事業の実施状況

項 目	実施時期	内 容
1 評議員会	<p>H29年6月21日</p> <p>H30年3月9日</p>	<p>事業団定款第9条～14条の規定に基づき、次のとおり開催した。</p> <p>① 第1回評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席評議員、理事 評議員6人、理事4人 ・ 報告事項 平成28年度事業報告 ・ 議決事項 議案第1号 平成28年度貸借対照表、収支計算書及び財産目録(案) 議案第2号 理事及び監事の報酬等の額及び支給基準(案) 議案第3号 理事及び監事の選任(案) <p>② 第2回評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席評議員、理事 評議員7名、理事3名 ・ 報告事項 職員の雇用問題
2 理事会	<p>H29年5月31日</p>	<p>事業団定款第23条～27条の規定に基づき次のとおり開催した。</p> <p>① 第1回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 議案第1号 平成28年度補正予算(理事長専決分)(案) 議案第2号 平成28年度事業報告(案) 議案第3号 平成28年度決算書(案) 議案第4号 平成29年度補正予算書(案) 議案第5号 就業規則の一部改正(案) 議案第6号 理事及び監事の委嘱(案) 議案第7号 第1回評議員会の招集事項(案)

	H29年6月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項 報告第1号 平成28年度苦情等受付・解決状況
	H29年11月17日	<p>② 第2回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 議案第1号 理事長の選任（案） 議案第2号 経理規程の一部改正（案） <p>③ 第3回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 議案第1号 平成29年度補正予算（案） 議案第2号 職員就業規則の一部改正（案） 議案第3号 臨時職員等就業規則の一部改正（案） 議案第4号 県民福祉プラザ夜間事務補助員就業規則の一部改正（案） 議案第5号 育児・介護休業等に関する規則の一部改正（案） 議案第6号 青森市社会福祉施設等防犯設備整備事業の執行（案）
	H30年2月6日	<p>④ 第4回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 議案第1号 職員の雇用問題（案） 議案第2号 第2回評議員会の招集事項（案）
	H30年3月9日	<p>⑤ 第5回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事1人 ・ 議決事項 議案第1号 平成29年度退職給与積立金取崩（理事長専決分）（案）

	<p>H30年3月22日</p>	<p>議案第2号 平成29年度補正予算(理事長専決分)(案)</p> <p>議案第3号 平成29年度退職給与積立金取崩(案)</p> <p>議案第4号 経理規程の一部改正(案)</p> <p>・報告事項</p> <p>報告第1号 青森市社会福祉施設等防犯設備整備事業の入札結果</p> <p>報告第2号 職員の雇用問題</p> <p>報告第3号 八甲学園不審文書に関する進捗状況</p> <p>⑥ 第6回理事会</p> <p>・場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」</p> <p>・出席理事、監事 理事6人、監事2人</p> <p>・議決事項</p> <p>議案第1号 平成29年度補正予算(案)</p> <p>議案第2号 平成30年度事業計画(案)</p> <p>議案第3号 平成30年度当初予算(案)</p> <p>議案第4号 職員就業規則の一部改正(案)</p> <p>議案第5号 職員給与規程の一部改正(案)</p> <p>議案第6号 臨時職員等就業規則の一部改正(案)</p> <p>議案第7号 世話人就業規則の一部改正(案)</p> <p>議案第8号 非常勤ホームヘルパー就業規則の一部改正(案)</p> <p>議案第9号 準職員就業規則の制定(案)</p> <p>議案第10号 常務理事の選任(案)</p> <p>議案第11号 施設長等人事(案)</p> <p>・報告事項</p> <p>報告第1号 平成29年度監査結果</p> <p>報告第2号 福祉サービス質の評価実績報告</p> <p>報告第3号 職員の雇用問題</p>
<p>3 監査等</p>	<p>H29年4月20日</p> <p>H29年5月9~10日</p> <p>H29年10月16日</p> <p>H29年10月23日</p> <p>H29年10月25日</p>	<p>① 青森県すこやか福祉事業団監事事前監査</p> <p>② 青森県すこやか福祉事業団監事監査</p> <p>③ 青森県すこやか福祉事業団内部監査</p> <p>監査対象：八甲学園</p> <p>監査対象：なつどまり</p> <p>監査対象：事務局、長寿社会振興センター 発達支援センター、プラザ管理室</p>

	<p>H29年10月30日 H29年10月31日 H29年11月1日 H29年11月2日 H29年12月13日 H29年12月7日 H30年1月10日</p> <p>【書面監査関係】</p>	<p>監査対象：すこやか苑 監査対象：就労サポートセンターさつき 監査対象：安生園 監査対象：ライフサポートあおば 事業調査：就労サポートセンターはくちょう (開設初年度につき事業進捗状況調査とした)</p> <p>④ 青森市指導監査課による指導監査 監査対象：八甲学園</p> <p>⑤ 青森県県民局監査指導課による指導監査 監査対象：事務局</p> <p>① 青森県県民局監査指導課による書面監査 監査対象：八甲学園</p> <p>② 青森市指導監査課による書面監査 監査対象：安生園、すこやか苑</p>
<p>4 会議等</p> <p>(1) 所属長会議</p> <p>(2) 経営委員会</p> <p>(3) 総務担当者 会議</p> <p>(4) 環境整備 委員会</p> <p>(5) 人材確保・ 育成委員会</p>	<p>H29年4月 ～H30年3月</p> <p>H29年4月 ～H30年2月</p> <p>H29年4月 ～H30年2月</p> <p>都度</p> <p>H29年4月 ～H30年2月</p>	<p>各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 計5回 <p>人事評価実施要綱に関する検討及び非正規職員の待遇改善や無期雇用制度に向けた取組を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 計3回 <p>庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 計4回 <p>各施設の所有地の環境整備やしいたけ栽培用の原木の伐採、稲作支援等を実施した。</p> <p>事業団の人材育成計画についての検討や、キャリアパス要件に関連する各種制度に関する内容の理解に努めた。また、県内他法人の取組み事例についても視察してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 計3回

(6) 職場環境改善委員会	H29年5月～11月	<p>労働者が働きやすい職場づくりのために、環境整備のために必要な取り組みについて検討した。</p> <p>また、女性管理職登用に関する意識調査を実施し、一般事業主行動計画に基づく女性が活躍できる職場づくりについて検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催回数 計3回
(7) 監査委員会	H29年6月～ H30年2月	<p>法人内の内部牽制の強化と、法定監査受検に対応できる人材の育成を目的に開催され、委員会形式のほか、サービス種別（障害福祉、高齢者福祉）や地域（青森市、平内町）、分野（処遇、経理、運営管理）ごとに「部会」形式でも実施し、職員が参加しやすいスタイルで開催した。</p> <p>また、福祉サービス自己評価についても、当委員会が担当して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催回数 計11回（委員会3回、部会8回）
5 職員の福利厚生		<p>非正規職員も含め（一部を除く）全職員を対象としてソウェルクラブへ加入し、福利厚生の充実を図った。</p> <p>また法人認定のクラブに対する助成金支援制度を創設した。</p>
6 その他		
(1) 北海道・東北ブロック事業団連絡協議会	H29年7月13日～14日 H29年8月3日～4日	<p>北海道・東北ブロック事業団事務局長会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場 所 盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡」 ・ 出席者 2人 <p>第1回北海道・東北ブロック事業団連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場 所 福島県西郷村「東京第一ホテル新白河」 ・ 出席者 2人
(2) 全事協事業	H30年2月15日～16日 H30年10月20日～21日	<p>第2回北海道・東北ブロック事業団連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場 所 青森市「ラ・プラス青い森」 ・ 出席者 開催担当県につき事務局全員参加 <p>全国社会福祉事業団大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場 所 福島県郡山市「郡山ビューホテルアネックス」 ・ 出席者 4人

3-1 研修の参加状況

項目	実施時期	内容
7 職員の研修 (1)北海道・東北 ブロック研修 職員研修 I	H29年11月9日 ～10日	意識改革を促進する研修 既成概念にとらわれない自由な発想で業務に取り 組むための意識改革の促進を図る研修 ・場 所 秋田県秋田市「秋田ビューホテル」 ・出席者 1人
(2)分野別、専門 別の研修につい て	H29年8月4日 H29年10月4日 H29年11月20日 H29年12月13日 ～14日 H30年1月16日～ 17日 H30年3月5日～ 6日	全事協社会福祉法人会計に関する研修 ・場 所 東京都「全国都市会館」 ・出席者 2人 社会福祉法人会計・経営セミナー ・場 所 青森市「アスパム」 ・出席者 2人 全事協労務管理研修 ・場 所 東京都「全国都市会館」 ・出席者 1人 改正社会福祉法・指導監査ガイドラインの解説と 実務上の留意点 ・場 所 東京都渋谷区「日本経営協会」 ・出席者 1人 労働時間管理・問題職員対応の実務 ・場 所 東京都渋谷区「日本経営協会」 ・出席者 1人 We b 広報戦略コース ・場 所 東京都渋谷区「日本経営協会」 ・出席者 1人
(3)階層別研修、 課題別研修、専門 分野別研修等		詳細、「階層別、課題別、専門分野別研修等実績一覧 表」(P10) のとおり。

(別 紙)

階層別、課題別、専門分野別研修等実績一覧表

月	日付	時間	内 容	人 数	講 師
4 月	4月14日	9:00~12:00	新任職員研修(臨時・非常勤)	18名	理事長、局長、所属長
5 月	5月17日	18:00~19:00	交通安全研修(前期)1回目	19名	青森モータースクール
	5月22日		エルダー研修	21名	(株)エターナル
	5月25日		交通安全研修(前期)2回目	14名	青森モータースクール
6 月	6月5日	17:30~18:30	誤嚥研修(サボセン)	9名	鹿内看護師 倉内副主任
	6月6日	10:00~11:00	誤嚥研修(デイすこやか)	6名	
	6月6日	17:30~18:30	誤嚥研修(デイあおば)	6名	
	6月8日	10:00~11:00	誤嚥研修(チャレンジすこやか)	7名	
	6月8日	17:00~18:00	誤嚥研修(はくちょう)	7名	
	6月26日	9:00~12:00	新任職員研修	26名	理事長、局長、所属長
9 月	9月5日	13:30~16:25	初級職員研修	22名	理事長、次長、中野課長
	9月6日	13:30~16:25	初級職員研修	18名	
	9月7日	13:30~16:25	初級職員研修	30名	
	9月15日	9:30~11:45	人事評価者研修	12名	(株)セミナー東北
	9月15日	13:30~15:45	人事評価者研修	8名	
	9月22日	9:30~11:55	リスクマネジメント研修	14名	理事長
	9月22日	13:30~15:55	虐待防止研修	14名	沼田弁護士
	9月29日	9:30~11:45	中級職員研修	17名	丸本監事
	9月29日	13:30~15:45	中級職員研修	15名	丸本監事
10 月	10月1日	9:40~16:00	内定者研修 I	8名	理事長他
	10月26日	9:00~12:00	新任職員研修(臨時・非常勤)	8名	理事長他
	10月26日	13:30~16:35	初級管理職研修	9名	リコージャパン
	10月27日	13:30~15:45	女性職員研修	18名	男女共同参画地域みらいねっと
11 月	11月10日	9:00~12:00	メンタルヘルス研修	11名	リコージャパン
	11月10日	13:30~16:30	ハラスメント研修	11名	
	11月29日	18:00~19:00	交通安全研修(後期)①	14名	東部自動車学校
	11月30日	18:00~19:00	交通安全研修(後期)②	13名	
12 月	12月11日	13:30~15:45	現任管理職研修	9名	(株)セミナー東北
1 月	1月12日	9:40~16:00	内定式、内定者研修 I	13名	理事長他
	1月15日	9:00~12:00	新任職員研修(臨時・非常勤)	11名	理事長他
	1月26日	9:30~11:45	利用者支援理解促進(障害者)	15名	松本敏治
	1月26日	13:30~15:45	利用者支援理解促進(高齢者)	17名	石戸育子
2 月	2月9日		採用内定者施設見学	21名	

4 県民福祉プラザの利用状況

No	研修室名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1	県民ホール	利用件数(件)	16	12	27	33	17	19	19	24	19	9	17	19	231
		利用者数(人)	2,595	2,485	5,629	5,433	2,060	2,300	3,273	3,871	2,906	1,730	2,883	2,810	37,975
2	大研修室	利用件数(件)	24	19	25	34	22	31	31	31	28	19	21	22	307
		利用者数(人)	1,343	1,304	1,405	1,379	1,243	955	1,683	1,654	1,395	1,247	1,383	1,749	16,740
3	中研修室	利用件数(件)	22	19	31	35	24	30	32	28	27	22	17	25	312
		利用者数(人)	851	1,029	1,449	1,256	957	812	1,297	1,126	1,008	907	902	1,112	12,706
4	小研修室	利用件数(件)	29	29	32	45	27	30	31	38	30	24	30	34	379
		利用者数(人)	305	375	381	583	330	368	338	518	420	334	384	384	4,720
5	多目的室4A	利用件数(件)	25	29	31	35	21	28	31	35	29	28	26	28	346
		利用者数(人)	611	656	674	950	604	713	793	828	658	525	557	636	8,205
6	多目的室4B	利用件数(件)	23	18	32	29	21	29	24	29	25	21	16	20	287
		利用者数(人)	674	535	1,081	656	322	577	592	842	549	513	447	626	7,414
7	講師控室1	利用件数(件)	5	5	13	15	9	16	15	11	8	6	3	4	110
		利用者数(人)	24	19	46	64	22	60	63	45	23	27	14	18	425
8	講師控室2	利用件数(件)	7	10	22	20	17	24	26	18	15	9	12	4	184
		利用者数(人)	48	51	110	94	76	103	118	77	54	21	49	12	813
9	多目的室3B	利用件数(件)	13	17	27	33	22	29	23	27	20	15	20	21	267
		利用者数(人)	241	323	396	532	319	433	323	508	348	301	382	300	4,406
10	多目的室3C	利用件数(件)	16	16	20	23	19	22	26	31	24	21	22	28	268
		利用者数(人)	111	98	153	166	144	166	233	268	197	162	194	207	2,099
11	多目的室2A	利用件数(件)	15	16	20	30	22	23	28	29	25	10	18	17	253
		利用者数(人)	550	610	599	982	655	778	941	1,103	749	338	678	525	8,508
12	多目的室2B	利用件数(件)	19	20	28	34	21	27	27	31	22	22	25	23	299
		利用者数(人)	255	257	386	457	305	360	387	499	276	289	313	301	4,085
13	調理実習室	利用件数(件)	4	7	8	8	9	11	11	14	11	8	9	7	107
		利用者数(人)	54	87	114	97	108	126	161	171	171	126	143	96	1,454
合 計		利用件数(件)	218	217	316	374	251	319	324	346	283	214	236	252	3,350
		利用者数(人)	7,662	7,829	12,423	12,649	7,145	7,751	10,202	11,510	8,754	6,520	8,329	8,776	109,550

【参 考】

年 度	利用件数	利用人数
平成28年度	3,124	103,304
平成29年度	3,350	109,550
増 減	226	6,246

平成28年度 利用件数 3,124件

利用者数103,304人

第2 障害児入所施設八甲学園

1 概況

平成29年度は、法人の経営理念とともに、新たに定めた学園の「基本理念」及び「基本方針」に基づき施設運営に努めてきた。

こども支援課の入所支援では、児童福祉法に基づき支援が行われ、満18歳以上の入所者に対しては障害者総合支援法の障害者施策の中で支援を行ってきた。また、平成24年度の児童福祉法改正による20歳以上の利用者の在所延長期間、いわゆる「みなし規定」の適用期限が3年延長され平成32年度末となったが、保護者とも相談しながら、障害福祉サービスへの円滑な移行を実施してきた。

平成29年度、法人の中に八甲学園特別対策会議が立ち上げられ、各事業の見直しを行い、その中で地域支援課の生活介護事業の定員増と居住棟（C棟）への移設を決定した。それを受け、児童と保護者に説明し理解を得た上で、居住環境改善のための改修工事を実施し、平成30年2月に入所児童の居住棟の移動（C棟からA棟へ）を行い、新しい体制での支援をスタートした。

退所は6名で、2名が青森市内のグループホーム（うち1名は八甲学園「サンハウス」）に、2名が障害者支援施設（うち1名はしらかば寮）に入居となった。他の2名は、それぞれ自宅への復帰となった。

入所は6名で、全員が措置入所であった。

近年の入退所の動向としては、在宅福祉サービスの充実や保護者の在宅志向により、施設入所に至るケースは年々減少傾向にある。しかし、子どもが成長していく中で、その障害特性等により家庭での養育が困難となるケース、保護者の監護能力の欠如や虐待ケースなど、入所施設のニーズは確実に存在する。また、精神障害や強い行動障害を抱えているケース等、個別での対応、より専門的な支援が求められ、それにどう対応していくか、環境を整えていくかが課題となっている。

こども支援課の在宅支援では、支援を必要とする学齢期の児童を対象とした放課後等デイサービスと、支援を必要とする未就学児を対象とした児童発達支援を実施した。

放課後等デイサービス（月～金）では、子どもと保護者のニーズを把握して個別支援計画を作成し、基本的日常生活動作や自立生活を支援するための活動を行った。

また、保護者参観週間を設け、保護者との連携強化や保護者同士のつながりに努めた。平成29年度の実績は、1日平均10.2名の受け入れとなった。

親子療育は、放課後等デイサービスと児童発達支援を実施し、診断の有無や通所受給者証の有無は問わず、未就学児から高校生までとその家族を対象に支援した。関係機関からの紹介もあり、平成29年度の実績は、通所受給者証を持っている児童は66名、持っていない児童は1名だった。

子どもと保護者のニーズを把握して個別支援計画を作成し、日常生活の基本的な動作の指導や運動、コミュニケーション能力、人間関係・社会性の発達のための支

援をした。家族に対しては、日々子どもを育てている保護者の思いを尊重し、保護者に寄り添い、発達上の気づきの促しや相談に対する助言等を行った。

地域支援課の多機能型事業所「はっこう」では、就労継続支援B型事業（定員25名）・生活介護事業（定員10名）の2事業で支援を行ってきた。

就労継続支援B型事業の中で行っている「こだわりの店『つぼみ』」（県内のいろいろな施設・事業所で生産したお菓子や手工芸品などを請負販売するもの）を、県民福祉プラザ（青森市中央2丁目）2階の喫茶施設にて販売し併せて喫食事業（主に日替わり弁当の販売）も加えて事業展開した。特に弁当販売においては、認知度は高まったものの販売個数にばらつきがあり、また食材料費や賃借料等コストの面での課題を残した。

さらに、県の事業（共同受注体制整備支援事業）の一つである農福連携マルシェを11月4～5日の2日間開催し、その売り上げによって利用者の工賃アップに繋がった。

多機能型事業については利用ニーズの変化や障害特性、運営面での安定性を踏まえ、法人として前述した特別対策会議を設置し、今後の事業展開について検討を行った。その結果、平成30年度より、生活介護事業及び就労継続支援B型事業をそれぞれ単独型事業として運営することとなった。

共同生活援助事業では、消防法の改正に伴う施設整備として全棟のグループホームに自動火災報知機を設置した。また、世話人との契約をこれまでの業務委託から職員化し、世話人の処遇改善と支援技術の向上に努め、利用者支援の充実を図った。更には、老朽化等によりグループホーム2棟を廃止し、事業の効率化を図った。

相談支援事業所においては、より利用者や保護者との相談や計画作成に対応できるよう、適正な利用件数の維持に努めてきた。

平成22年度から実施している行動援護事業は、一定のニーズはあるものの、基準を満たす人員の確保及び専門性を備えた人材の確保が難しく、経営面でも厳しい状況であるため、各利用者方及び行政等関係機関に現状を説明し、理解を得たうえで、平成30年3月31日をもって事業廃止した。

職員研修においては、虐待等不適切支援の防止に向けて、外部研修の他、内部研修や職員セルフチェックリストの実施などにより意識啓発等を図った。

また、昨年同様にストレスチェック及び産業医による職員研修を実施し職員の健康保持に努めた。

さらに防災委員会では、「土砂災害に関する避難確保計画」及び「八甲学園事業継続計画（BCP）」、「八甲学園全国瞬時警報システム（Jアラート）発信時管理体制要綱「ミサイル発射時対応マニュアル」を新たに策定し防災体制の整備に努めた。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

区 分	総務課	こども支援課		地域支援課				計
		入所支援	デイはっこう	多機能型	GH	相談支援	行動援護	
園 長	1							1
推 進 監		1		1				2
課 長	1							
主任支援員		2			1	1		4
副主任支援員・栄養士			1	2		1	1	5
事務員・支援員	2	5		1				8
臨時事務員・支援員	1	8	4	8	2	1		24
看 護 師	1			1				2
非常勤支援員	1	2		6	3			12
非常勤事務員					1			1
世 話 人				17				17
非常勤嘱託等	5							5
専任当直員	3							3
計	15	18	5	36	7	3	1	85

I 施設入所支援（指定知的障害児施設）

1 利用児童等の状況

- (1) 定 員 30名
 (2) 平成28年度末現在利用児童等の数 24名
 (3) 平成29年度内退所児童の数 6名
 (4) 平成29年度新規利用児童等の数 6名
 (5) 平成29年度末現在利用児童の数 24名
 (6) 年齢別利用児童等の数 (平成30年3月31日現在)

年 齢	男	女	計	年 齢	男	女	計
5				14	2	1	3
6				15	5	1	6
7				16	3		3
8	1	1	2	17	1	2	3
9				18	1		1
10				19			
11				20歳以上	1		1
12	2		2	計	18	6	24
13	2	1	3				

入所児童の平均年齢 15.5歳 (男子 15.6歳 女子 17.2歳)

(7) 第二養護学校への就学状況 (平成30年3月31日現在)

学年 性別	小学部							中学部				高等部				合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
男		1				2	3		5	4	9	3	1	1	5	17
女		1					1	1	1	1	3		2		2	6
計		2				2	4	1	6	5	12	3	3	3	7	23

2 運営方針

児童福祉法及び障害者総合支援法並びに関係する法令等に基づき、利用児・者一人ひとりが人間としての尊厳を守られながら、心豊かで健やかに成長し、地域社会の一員として自己の能力や特性に応じた暮らしができるよう、ライフステージに応じた多様なサービスを提供する。

18歳以上の利用者に対しては、個々の能力や特性に応じた障害福祉サービスを提供し、地域生活を目指した支援を行う。また、可能な限り本人の意思を尊重し、自ら選択・決定できるよう支援を行う。

3 重点事項

- (1) 虐待防止及び権利擁護の推進啓発
- (2) 利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実
- (3) 基本的生活習慣の確立
- (4) 地域生活に向けた社会性の向上及び社会参加の促進
- (5) 在宅児童に対する療育支援の充実
- (6) 生活・支援環境の整備と向上
- (7) 家庭、学校、医療及び関係機関との協力・連携

4 事業の実施状況

項目	実施時期又は回数	内容
(1) 生活支援	随時	① 社会体験学習 買物・食事・公共施設等 (延78回)
	4月29日 7月21日 8月7日 8月10日 8月2日 11月14日 12月22日 1月5日 4月期 7月～8月期 12月～1月期 3月期	② 行事 ・花見/八甲学園裏庭 (20名) ・学園なつまつり ・夏休み外出/青い森セントラルパーク (東北サファリパーク移動動物園)(17名) ・夏休み外出/カラオケ合衆国 (カラオケ) (9名) ・ねぶた観覧 (招待23名) ・自立センターみらい文化祭模擬店参加 (2名) ・クリスマスの集い ・新年会 ③ 家庭実習 ・春季家庭実習 (7名帰省) ・夏季家庭実習 (10名帰省) ・冬季家庭実習 (16名帰省) ・春季家庭実習 (5名帰省)
(2) 学卒児支援	年間	① 園外活動一歩行訓練・作業活動 ② 園内活動一身边自立・清掃・調理実習
(3) 就労支援	随時	① 学校の実習に協力 実習先訪問・通勤指導・金銭管理指導・市営バス利用練習
(4) 強度行動障害特別処遇事業	1回/月 2回/月/1人	・スタッフ会議 ・対象児童4名にプレイセラピーを実施
(5) 健康管理	随時	① 通院 24回 ② 精神科嘱託医の検診 2回 ③ 内科嘱託医の診察 12回 ④ 身長体重測定 3回 ⑤ フッ素塗布 1回 ⑥ 眼科検診 1回 ⑦ 歯科検診 1回 ⑧ 定期健康診断

項目	実施時期又は回数	内 容
(6) 防災訓練	1 2回/年 6月20日 7月14日 11月30日 7月14日 11月30日	① 避難訓練 (火災・地震想定) ② 地域防災懇談会 (横内市民センター) ③ 総合避難訓練 (前期45名) (地域防災協力隊43名) ④ 総合避難訓練 (後期32名) ⑤ 非常通報訓練 (春) ⑥ 非常通報訓練 (秋)
(7) 研修	随 時	① 職場内研修・研究発表 ② 県内研修 ③ 県外研修
(8) 広報活動	3回/年	① 学園だより ② ホームページ ③ リーフレット配布 ④ 市町村訪問
(9) ボランティア	随 時	① 夏祭り
(10) 実習受け入れ	随 時	専門学校2 短大3 大学2 計7校 実数11名 延数 223名

5 短期入所 (指定短期入所事業)

(1) 利用児童等の状況 (平成30年3月31日現在)

- ア 利用契約者数 36名
- イ 延利用児童数 48名

II 多機能型障害児通所事業

1 利用児童の状況 (平成30年3月31日現在)

(1) 放課後等デイサービス

- ア 定員 (児童数) 10名
- イ 利用契約者数 30名
- ウ 延利用児童数 2,468名

(2) 児童発達支援事業 (親子療育)

- ア 定員 (児童数) 5名
- イ 利用契約者数 6名 (受給者証有5名、受給者証無1名)
- ウ 延利用児童数 16名

(3) 放課後等デイサービス (親子療育)

- ア 定員 (児童数) 5名
- イ 利用契約者数 10名 (受給者証有10名)
- ウ 延利用児童数 51名

Ⅲ 多機能型事業所はっこう（就労継続支援B型事業・生活介護事業）

1 概要

（1）就労継続支援B型事業

一般就労が困難な方々に対して、生産活動の場を提供し就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行った。

活動班を、リサイクル班・ショップ班・請負班の三班体制とした。請負班の作業種目を細分化し、午前と午後とで様々な作業体験を行える体制で支援した。

（2）生活介護事業

18歳以上の方を対象に日中活動支援を確立し、日常生活スキル向上に必要な支援を実施した。

利用者一人ひとりの障害特性、要望に応じた活動（軽作業、課題、創作、運動、余暇）支援を実施し、就労継続支援B型事業における作業の一部を請負い、積極的に作業参加を促した。

また、月に一度、園外活動で社会資源を活用し地域での介護活動を積極的に取り組むとともに、障害特性に応じた支援方法を検討し、過ごしやすい環境を提供できるよう工夫した。

2 事業実施状況

（1）利用者の状況

区 分	就労継続支援 事業B型	生活介護事業	計
（1）定 員	25	10	35
（2）平成28年度 開始時利用者数	26 (男19・女7)	10 (男4・女6)	36 (男23・女13)
（3）平成28年度 終了時利用者数	25 (男19・女6)	11 (男6・女5)	36 (男25・女11)
（4）平成29年度 開始時利用者数	29 (男22・女7)	11 (男6・女5)	40 (男28・女12)
（5）平成29年度 末現在利用者数	23 (男16・女7)	13 (男8・女5)	36 (男24・女12)

(2) 各班の売上状況 (単位:円)

作業班	売上状況
(1)リサイクル班	4, 137, 346
(2)菜果班	229, 950
(3)ショップ班	6, 029, 052
(4)請負班	4, 131, 180
計	14, 527, 528

(3) 工賃等の支給状況 (単位;円)

区 分	就労継続支援 事業B型	生活介護
(1)工賃(1人当 たり月平均)	9, 207	1, 421
(2)一時金(1人 当たり年平均)	19, 528	9, 093
(3)支給合計(1 人当たり年平均)	13, 365	1, 511

(4) 職場実習・見学及び求職活動等の支援

① 企業等での実習

事業所等	人数	内容	期 間
農福連携事業	0名	農家畑作作業依頼時期 と、請負班繁忙期と重な ったため出来なかった。	(0日間)
現場実習	3名	事業所作業 (各作業)	(6日間)

② 求職活動

事業所等	人数	内容
障害者面接会	1名(B型)	面接
A型事業所	1名(B型)	体験利用
一般就労	1名(B型)	※本人希望により就職

(5) 行事関係
(就労系)

区分	レクリエーション	地域交流・保健、防災及び安全
4月		保護者懇談会
5月		横内町会清掃活動
6月		地域防災懇談会
7月		総合防災訓練 八甲学園夏祭り
8月		北蚩沢町会ねぶた運行
9月		横内地区防災訓練
10月	カラオケ大会 (29日)	総合防災訓練
11月	映画鑑賞 (11日)	
12月	はっこう利用者忘年会 (2日) 育成会クリスマス会(11日)	しめ縄づくり
1月	利用者新年会 (6日)	
2月		
3月	はっこう利用者慰労会(10日)	

※レクリエーションについては、年間行事計画で毎月開催予定としていたが、就労系利用者の方々は、各自で週末、余暇を過ごす傾向が強く、参加希望を募ったところ集まらず、毎月開催に至らなかった。

(生活介護)

4月	合浦公園花見会(25日・28日)
5月	青森観光物産館アスパム (30日・31日)
6月	青森市民センター プラネタリウム(27日・29日)
7月	八甲学園夏祭り
8月	ラウンドワン青森(22日・24日)
9月	田舎館田んぼアート (21日)
10月	道の駅なみおかアップルヒルりんご収穫(27日)
11月	帆立小屋(30日)
12月	利用者忘年会/あじ菜(14日)
1月	ラウンドワン青森・八森ラーメン(18日)
2月	立佞武多の館・ガスト五所川原店(12日)
3月	利用者慰労会/すたみな太郎(15日)

(6) 職員研修関係

学園内での勉強会や事務局主催の研修を始め、県内外の各種研修等に職員を派遣し支援スキルの向上に努めた。

(7) 広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して利用の促進に努めた。

(8) 作業班

① リサイクル班

・回収事業所及び合子沢町会、北蛭沢町会への回収を行い、主たる収入源であるアルミ缶の収量の維持に努めた。

・選別等の作業だけでなく、作業場の清掃等維持管理に重点を置いた支援を行った。

② ショップ班（県民福祉プラザ 2F こだわりの店「つぼみ」）

・共同受注窓口体制事業で県内の福祉施設で作られた製品の販売及び、各イベント販売の他、手作り弁当の製造、販売を行った。

③ 請負班

・請負班では、班の中を細分化し清掃部門として八甲学園清掃、安生園清掃を、受持ち、毎日の園内清掃に従事した。

・菜果部門においては、ハウスでのイチゴ栽培を行ったが、今年度は生育が悪く思うような収穫が得られなかった。また、畑作については、白菜、ニンジン、ピーマン、枝豆、さつま芋など収穫され、秋に行われた農福連携マルシェ等で販売した。

・外部受注部門においては、青森市パークメンテから受注した公園管理 5カ所（平和公園、浜館公園、奥野中央公園、浜田中央公園、野木和公園）の花植え、水撒き、除草作業や、県民福祉プラザ植栽管理、雪囲い、市内 11箇所ของกลุ่มホーム除排雪などを行った。

IV 指定共同生活援助事業所サンハウス（共同生活援助事業）

1 概要

利用者が地域で自立した生活を送るための拠点とし、利用者のニーズを的確に把握し、豊かな生活を送れるようハード面（自火報の設置・グループホームの整備）及びソフト面（支援の充実・世話人の職員化）での整備を図り支援を行った。

これまで、業務委託していた世話人を平成 29 年 7 月 1 日より職員化し、世話人の支援スキルの向上に努めた。

また、老朽化した GH や維持費のかかる GH を廃止し、事業の効率化を図った。

※平成 29 年 6 月 30 日 第 4 サンハウス廃止

※平成 30 年 3 月 31 日 桜ハウス廃止

2 事業実施状況

(1) グループホームの設置状況

名 称(地区)	設置年月日	定 員
①サンハウス(緑)	平成5年4月1日	6
②第二サンハウス(蛍沢)	平成6年4月1日	5
③第三サンハウス(新城)	平成8年4月1日	5
④第五サンハウス(幸畑)	平成25年12月1日	5
⑤旭ハウス(大野)	平成21年4月1日	5
⑥うとうハイム(古館)	平成13年10月1日	5
⑦第二うとうハイム(筒井)	平成22年4月1日	5
⑧おくのハウス(奥野)	平成25年12月1日	6
⑨ 紅葉ハウス(新城)	平成24年10月1日	5
⑩第二紅葉ハウス(新城)	平成25年11月1日	5
合 計		52

(2) 利用者の状況 (平成30年3月31日現在)

区分	人数
(1)定員	52
(2)平成28年度末現在の利用者数	57(男44・女13)
(3)平成29年度内の利用終了者数	9(男8・女1)
(4)平成29年度内の利用開始者数	2(男1・女1)
(5)平成29年度末現在の利用者数	50(男37・女13)

(3) 行事等

区分	内 容	地域行事
4月	はっぴーの会幹事会	平内町清掃ボランティア
5月		横内町会清掃活動
6月	チャリティービアパーティ はっぴーの会カラオケ大会 避難訓練	緑町会花植え参加
7月	八甲学園なつまつり	
8月	はっぴーの会食事会	北蛍沢町会ねぶた運行
9月	はっぴーの会日帰り旅行	
10月	あおもりホット音楽祭	
11月	避難訓練	
12月	はっぴーの会忘年会	
2月	避難訓練	

※「はっぴーの会」とは利用者の親睦組織。

(4) 職員研修関係

法人内、学園内での研修会の他、グループホーム連絡協議会等の各種研修会に職員及び世話人を派遣し、支援技術の向上を図った。

(5) 広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

V 相談支援事業あおば

1 概況

基本相談（支援障害者等の福祉に関する全般の問題につき、障害者等からの相談に応じ、必要な情報（障害福祉サービス等）の提供及び助言）及び指定特定相談支援・障害児相談支援（障害者や障害児等が障害福祉サービスを利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援）を実施した。

2 利用状況

名称（事業名）	契約件数	サービス等利用計画作成	モニタリング
(1) 指定特定相談支援事業	171件	127件	270件
(2) 障害児相談支援事業	80件	85件	117件

3 職員研修関係

(1) 青森市相談支援事業所連絡会議（主催：青森市）に、行政及び他相談支援事業所との連携を図ることと業務に必要な情報収集を目的に参加した。

期日	場所
4月20日	しあわせプラザ
5月25日	青森市役所 柳川庁舎
6月15日	しあわせプラザ
7月20日	しあわせプラザ
8月17日	沖館市民センター
9月14日	しあわせプラザ
10月19日	青森市役所 柳川庁舎
11月16日	しあわせプラザ
12月20日	青森県立図書館
1月19日	しあわせプラザ
2月15日	油川市民センター
3月16日	しあわせプラザ

(2) 事務局主催の研修を始め、県内の各種研修等に職員を派遣し、面接技術の習得などスキルの向上に繋げた。

VI 行動援護事業あおば

1 概況

知的障害等により外出等で援護を必要とする利用者に対し、危険を回避するために必要な援護、移動中の介護、排泄及び食事との介護、その他必要な援助を行った他、各種関係機関との連携やサービス内容の普及啓発に努めた。

職員のサービス提供1回あたりの稼働時間は、平均2時間30分程度であった。その他に、保護者との連絡調整、事業所と利用者宅間の移動、実施場所の下見、場面に応じた活動支援計画作成等の事前準備に時間を要している。こうした事前の準備を入念に行うことで、事故等のない安全なサービス提供が可能となった。

契約者の内訳では、すべてが自閉症を有する男子（児・者）であった。

利用児者の受け入れは稼働可能職員数に比例するため、新規を受け入れることは難しく利用を制限せざるを得ない結果となった。

本事業については、平成30年3月31日をもって事業廃止となった。

2 利用状況

(1) 月別利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
営業日数	19	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	241
延べ利用人数	22	21	22	21	24	26	21	20	15	22	22	28	264

(2) 活動状況

活動	延回数	活動	延回数	活動	延回数
入浴	93	買い物	130	他運動	17
散策散歩等	34	スケート	30	他活動	36
公共施設等	29	プール	84	緊急中止	0
食事	35	水族館	1	キャンセル	35

※1回の利用で複数の活動を実施することが多くあるため、利用数と活動数は異なる。銭湯などの活動や排泄の自立度との関係から、同性介助を要する場面が多かった。

第3 安生園

1 概況

安生園の運営にあたっては、「関係法令」及び「当事業団の経営理念、職員倫理綱領」を遵守し、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った支援に努めてきた。

利用者が自立した日常生活を営むことができるよう介護予防体制を整えるとともに、要支援または要介護状態の利用者支援については、併設の「ヘルパーステーションあんじょう」及び「居宅介護支援センターあんじょう」と連携しながら利用者の生活支援を推進した。

安生園では、施設の安定的な運営を確保するため、青森市にある県・市営住宅、地域包括支援センター等への広報活動を積極的に実施するなど、広報活動に力を入れ、利用者獲得に努めてきた。

また、隣接する「特別養護老人ホームすこやか苑」との災害時等の協力体制を組織するなど、連携を図り、利用者の安全確保等に努めた。

(1) 養護老人ホーム安生園

平成29年度は、青森市、蓬田村から5人の入所があり、退所者は9人（内訳は死亡3人、施設替え3人、長期入院1人、家庭復帰2人）だった。

また、利用者の状況として、利用者の高齢化（平均年齢80.5歳、80歳以上52人）により、介護を必要とする者は、要支援1、2が9人、要介護1～3が58人、要介護4が1人、要介護5が2人の計70人となっている。また、認知症、病弱者、精神疾患などにより共同生活の難しい方などの入所があり、従来の見守り支援に留まらず、きめ細かな専門的な支援が必要となっている。さらに、虐待、触法高齢者などの受入もあり、ニーズの多様化と複雑化は顕著となっている。

近年は、歩行不安定な利用者が目立ち転倒防止のための歩行器やシルバーカーの利用者が増えている。平成29年度は、利用者の転倒によるヒヤリ・ハット、事故報告が82件発生しており、骨粗鬆症疾患の方が万が一転倒した場合は大きな事故に繋がることから、利用者及び職員への注意喚起を徹底するなど転倒事故防止に努めてきた。また、骨粗鬆症疾患等、病弱者の医療面においても十分配慮しながら利用者の身体機能の維持に努めてきた。

(2) ヘルパーステーションあんじょう

平成26年2月から福祉有償運送事業を開始し、総合的なサービスの提供が可能となり利用者の利便が向上したことで、利用者の獲得や収支の拡大など、経営の安定を図るためPR活動を実施してきた。青森市内には訪問介護・介護予防訪問介護事業所が多数あり激戦区となっているが、徐々に実績が上がってきており、今年度末の契約者数は、訪問介護67人、介護予防4人となっている。前年度比で

は、延利用人員が 902 人の増、2,971 千円の増収となっている。今後も事業所の周知・広報啓発の強化を継続し、経営の安定化を図っていくこととしている。

(3) 居宅介護支援センターあんじょう

平成 29 年度は、地域包括支援センターや、各事業所からの新規利用者紹介数が複数あった。日頃の PR 活動での居宅あんじょうの周知や、他事業所との良い関係性を保つことができた。

また、平成 29 年度は介護支援専門員 1 名減の期間があり、主任介護支援専門員を含む介護支援専門員 4 人体制の特定事業所加算Ⅱから、主任介護支援専門員 3 人体制の特定事業所加算Ⅲとなり、減算となる期間もあったが、年間の収入は増加した。

前年度と比べ、利用者延べ人数が 30 人の増加、居宅介護支援費が 1,713 千円の増、認定調査費が 280 千円の減、介護予防支援費が 37 千円の減、合計 1,394 千円の増加となった。今後も事業所の周知・広報活動を継続し、経営の安定化を図っていききたい。

2 重点事項

- (1) 利用者の権利擁護を推進し、虐待防止に努めた。
- (2) 利用者支援の強化（生きがい活動の促進、身体機能及び自立した生活の維持と保健衛生の向上、リスクマネジメントの強化）を図った。
- (3) 家族との関係が希薄な利用者の連携強化に努めた。
- (4) 安定的な経営基盤の確保のため、事業所のチラシを配布するなど利用者の獲得に努めた。
- (5) 地域交流の促進をするため、新たに青森第二養護学校や青森市内の中学生の職場実習、シニアカレッジの実習などを積極的に受け入れた。

3 職員の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

所 属	養護老人 ホーム	訪問介護等 支援事業所	居宅介護 支援事業所	計
職員数 (人)	22	12	4	38

第3—I 養護老人ホーム安生園

1 概況

養護老人ホーム安生園は、昭和26年の開設以来、老人福祉法の基本理念に基づき、利用者は長年にわたり社会の進展に寄与してきた方々として敬愛し、生きがいを持ち健全で安らかな生活を保障するとともに、利用者の権利擁護と意思決定を尊重しながら個々の支援計画に基づいた施設運営に努めてきた。

ここ数年は、歩行不安定な方など、要介護や認知症により入所する利用者が目立ち、併設する介護保険事業所等と連携した利用者支援を展開している。

また、入所に至る経緯も多様化し、虐待被害者、触法高齢者、精神病院からの受入先となっているほか、地域で生活することが困難な知的障害者や精神障害者等の受入先として地域のセーフティネットとしての役割を果たしている。

地域交流については、新たに実習を受け入れるとともに、町会の一員として夏祭りに参加した。また、当園の地域防災協力隊に地域住民の方々に参画していただくなど、積極的に地域と関わっている。

生きがい支援策としては、出来る限り希望を叶えるべく聞き取り調査や自治会代表者会議で意見を求めて、各行事に要望等を反映させている。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

		園長	課長	主任	副主任	支援員等	臨時職員	非常勤職員	専任当直員	計
総務課	男	1						医師1	3	5
	女			1	栄養士1	看護師1		医師1		4
高齢者支援課	男		主任生活相談員1	1	1	1				4
	女			2	1	1	3	2		9
計		1	1	4	3	3	3	4	3	22

3 入退所の状況

(1) 定員	100人
(2) 平成28年度末現在の利用者数	98人
(3) 平成29年度内の退所者数	9人
(4) 平成29年度内の入所者数	5人
(5) 平成29年度末現在の利用者数	94人

4 運営方針

利用者の支援にあたっては、利用者の権利擁護と意思決定を尊重した上で個々の支援計画に基づき、快適な生活が送れるよう居住環境の向上、感染症の罹患予防、

生きがいの創出、リスクマネジメントの強化、虐待防止などに留意して支援に努め、特に今年度は感染症の罹患者はでなかった。

また、利用者が自立した日常生活を営むことができるよう介護予防体制を整えるとともに、要支援又は要介護状態になった際は、併設の「ヘルパーステーションあんじょう」及び「居宅介護支援センターあんじょう」と連携しながら利用者の生活支援を推進した。

利用者の高齢化に伴う介護支援の漸増、ニーズの多様化（虐待、触法等）に対応した職員研修の充実と、人材の育成に努めた。

さらに、当園が地域福祉の中核的な役割を担う存在として地域住民に認知されるよう地域住民との交流、施設機能の開放、実習・ボランティアの積極的な受入れ、青森市福祉避難所としての被災者受入れなど、地域との連携を深めながら地域に貢献する施設の運営に努めた。

5 支援目標

- (1) 自立した生活形成のため、利用者個々の意向と状態を把握し、適切な支援を行った。
- (2) 安全対策として、交通安全教室及び防災訓練等を通して防災意識の徹底を図った。
- (3) 利用者の健康診断及び予防接種等を通し、疾病の予防、早期発見・治療に努め、口腔衛生や手洗い等の励行による感染症予防等日常の保健衛生意識の向上を図った。
- (4) 介護予防のため、3B体操など継続した実践に努めた。
- (5) 生きがい作りと余暇活動が充実するように、地域の情報提供や個々の希望に適切に沿う支援とともに、クラブ活動の充実、自治会活動・懇談会等を通じて環境作りに努めた。
- (6) 園内のクラブ活動に地域の人に参加できるようにするなど、施設の資源開放と、利用者の生活圏を広げ、地域の一員として自立した生活が送れるように町会活動等に参加し交流を図った。
- (7) 苦情解決事業及び意見箱の設置等による利用者の状況の把握と、顧客満足度調査を実施し、利用者の権利擁護に努めた。
- (8) 利用者個々の意向を踏まえた外出や、家族との交流を設定することにより安心して生活を送れるように努めた。

6 事業の実施状況

(1) 行事等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
各寮懇談会	月 1 回	延 4 5 1 人	
音楽療法	月 1 ～ 2 回	延 2 5 3 人	

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
自治会代表者会議	年 2 回	延 6 1 人	
コーヒーサロン	年 4 回	延 1 5 4 人	
ビデオ上映	月 2 回	延 2 2 0 人	
出張販売（6 業者）	週 1 ～ 2 回		食料品・日用雑貨、果物、パン、クリーニング等
利用者との集い	4 / 3	6 4 人	
自治会総会	4 / 5	3 9 人	
輪投げ大会	6 / 1 4	4 9 人	地域交流行事
地域交流懇談会	6 / 1 7	1 2 団体	
納涼夏祭り	7 / 2 6	8 0 人	地域交流行事
盆墓参	8 / 3	7 人	三内霊園
敬老会	9 / 1 3	9 2 人	
市内遊覧	1 0 / 3 0	4 人	イトーヨーカドー、
	1 1 / 2	2 人	寿司処あすか
	1 1 / 8	6 人	ジャスコ
	1 1 / 1 5	5 人	
ミニ運動会	1 0 / 1 8	3 7 人	
リフレッシュ日帰り旅行	9 / 2 9	1 3 人	ろっかぽっか温泉
文化祭	1 1 / 4	9 6 人	
年忘れお楽しみ会	1 2 / 2 0	8 9 人	
餅つき会	1 / 5	5 4 人	
節分豆撒き	2 / 2	5 5 人	
物故者慰霊祭	3 / 7	4 8 人	
利用者との集い	3 / 3 0	4 8 人	

(2) クラブ活動

名 称	実施回数	参加者数	備 考
茶 道	1 2 回	延 2 3 2 人	
華 道	1 2 回	延 4 8 人	
書 道	1 8 回	延 6 4 人	
籐工芸	1 0 回	延 4 3 人	
大相撲星取り	6 回	延 1 1 4 人	
カラオケ	2 4 回	延 3 2 3 人	

(3) 地域交流

交流等の相手	交流の内容	実施時期等	備 考
近隣町内会及び関係機関	意見交換等	6 / 1 7	安生園地域交流懇談会
	安生園納涼夏祭り	7 / 2 6	
虹ヶ丘町会	町会夏祭り参加	7 / 2 9	
北赤坂町会宝寿会	利用者との交流	6 / 1 4	安生園輪投げ大会
自由ヶ丘老友ほのぼの会			

(4) 保健衛生

内 容	実施時期等	人数等	備 考
身長測定	年 1 回 (4 月)	全員	
血圧・体重測定	月 1 回	全員	
入浴	週 3 回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土
通院	週間計画表により実施	対象者	
結核検診	4/3	97 人	
春・秋の基本健診（理学的検査・尿・血液・心電図）	5/29・10/16	98 人	
嘱託医による講話	9/8・2/27	55 人	
歯科検診	4/5・12・19	97 人	
歯科衛生指導	年 4 回	延 73 人	
内科問診及びインフルエンザ予防接種	11/9・11/10	97 人	嘱託医
嘱託医による診療相談	月 2 回	対象者	内科
嘱託医による医療相談	月 1 回	対象者	精神科
感染症対策委員会	4 回		
春の大掃除	5 月		
秋の大掃除	1 2 月		

(5) 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
交通安全教室	4 / 2 1	4 4 人	
夜間想定防災訓練	6 / 2 0	5 2 人	
夜間防災訓練	7 / 8	7 8 人	地域防災協力隊参加

(6) 交流 (慰問)・ボランティア

ア 交流 (慰問)

団体等名称	内 容	実施時期等	備 考
シニアカレッジ種子島交流会	歌	4 / 2 1	
明の星幼稚園	歌、お遊戯、手遊び	9 / 1 8	
青森県立保健大	三味線サークル交流	9 / 2 8	
ボランティアサークル 「希望の会」	歌、踊り、手品	7 / 5 1 1 / 2 9	
聖アルバン幼稚園	訪問 (収穫物の提供)	1 1 / 1 3	
三内・奥内・西田沢保育園	歌、お遊戯、手遊び	1 / 1 7	
踊りサークル木原	踊り	1 / 3 1	
青森高校合唱部	合唱	3 / 1 0	音楽部

イ 招 待

団体等名称	内 容	実施時期等	参加者数
青森市	ねぶた観覧	8 / 2	1 1 人
青森市社会福祉協議会	チャリティーピアノコンサート	8 / 2 8	2 人
明治大学	マンドリンコンサート	9 / 8	4 人
青森県すこやか福祉 事業団	シニアフェスティバル	9 / 2 3	5 人
青森県立保健大学	大学祭参加 (三味線サークル)	1 0 / 7	6 人
平内町	洋らん祭	3 / 1 6	8 人
青森スポーツ振興会	みちのくプロレス観戦	5 / 3、1 1 / 3	5 人

ウ ボランティア

団体等名称	奉仕内容	実施時期等	人 数
個人	茶道クラブ指導	年間	1 人
	華道クラブ指導	年間	1 人
	書道クラブ指導	年間	1 人
	籐工芸クラブ指導	年間	1 人
青森市立佃中学校	サマーボランティア	7 / 2 6	5 人
青森市立佃中学校	施設内環境整備	1 2 / 2 7	8 人
シニアカレッジ	施設内環境整備	7 / 1 1	6 人
	施設内環境整備	8 / 2 2	8 人
	施設内環境整備	9 / 1 9	9 人
	施設内環境整備	1 2 / 5	1 5 人
	施設内環境整備・ 利用者レクリエーション	1 2 / 1 9	1 3 人

(7) 地域福祉関係

団体等名称	内容	実施時期等	備考
市内グループホーム(1施設)	音楽療法の開放	月1～2回	
青森県立第二高等養護学校	就業体験	年4回	コーヒーサロン

(8) 職員研修関係

外部の研修に職員を派遣したほか、所内で次の研修会を行った。

内 容	実施時期	参加者数	備 考
ヒトココ講習会と使用による搜索訓練	4 / 24	7人	
『救命講習』及び『誤嚥時の対応』	6 / 23	14人	AED の使用法を確認する
介護保険について	7 / 3	13人	
合同研究発表会	12 / 13	30人	
虐待防止研修	12 / 13	13人	
感染症予防について	2 / 27	12人	
合 計		89人	

(9) 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月1回	
苦情解決協議会	年4回	

(10) 実習・実務研修等受入

依頼元(実習内容)	受入時期	人数
青森県立青森第二養護学校 校中学部(交流学习)	6 / 8、7 / 20、8 / 29、9 / 26、 10 / 19、11 / 14、12 / 19	11人
青森県立北斗高等学校通 信制(職場見学)	6 / 29	10人
青森県立青森第二高等養 護学校(体験学習)	6 / 26・11 / 6 12 / 11・3 / 12	32人
東北福祉大 社会福祉援助技術実習	7 / 3～8 / 4	1人

依頼元（実習内容）	受入時期	人数
青森県立保健大 ソーシャルワーク実習	8 / 6 ~ 8 / 22 9 / 10 ~ 9 / 24	2人
岩手県立大 ソーシャルワーク実習	8 / 30 ~ 9 / 15 11 / 6 ~ 11 / 17	1人
青森県立青森第一養護学 校（産業現場等における 実習）	10 / 2 ~ 10 / 13	1人
青森県立青森第二高等養 護学校（現場実習）	9 / 25 ~ 10 / 6	1人
青森県自治研修所 （新採用職員に係る体験 学習）	10 / 5	4人
	10 / 12	4人
	10 / 19	4人
	10 / 26	4人
	11 / 9	4人
法人内実施研修	7 / 11 ~ 2 / 23	8人
青森市立佃中学校（職場 体験）	7 / 4 ~ 6	4人
青森市立戸山中学校（職 場体験）	7 / 11	4人
青森市立東中学校（職場 訪問）	7 / 28	11人
青森県立青森西高等学校 （インターンシップ）	8 / 2 ~ 3	2人
青森市立造道中学校（職 場体験）	9 / 5	7人
青森市立筒井中学校（職 場体験）	9 / 6	4人
合 計		119人

Ⅱ 老人居宅介護等事業安生園（ヘルパーステーションあんじょう）

1 概 況

サービス利用者が前年度と比べて要介護利用者の延べ利用人数が 902 人増、介護予防利用者の延べ利用人数が 283 人減となり、利用者全体の利用人数は、計 1185 人増となった。収入についても同一の建物内に 20 人以上居住する建物の定義から、10%の減算となっているが、要介護利用者の請求額が 3,832,750 円増、介護予防利用者の請求額が 861,270 円減、計 2,971,480 円の増となった。この背景には、新規の安生園

利用者の利用・延べ人数の増と、減算とならない外部利用者の延べ人数が増えたことに加え、前年度同様介護予防利用者が要介護に区分変更となる傾向にあった。

また、平成 26 年度に開始した福祉有償運送事業については、施設内外を問わず利用者の幅広い活動（通院や買い物等）の運送サービスの定着を目指して実施し続けており、売り上げも順調に伸びている。

平成 29 年度は、定例のヘルパーステーション内部研修を毎月実施した他、外部の研修へ臨時・非常勤ヘルパーを派遣し、他事業所との交流や、介護知識・技術等の質の向上に努めた。

2 職員の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

	管理者	サービス提供責任者	臨時訪問介護員	非常勤訪問介護員	計
男		1			1
女	(1)	1	3	7	11
計	(1)	2	3	7	12

※管理者はサービス提供責任者兼務となる。

3 運営方針

在宅で生活している高齢者及び安生園利用者が、要支援状態または、要介護状態になった場合に、入浴・排泄・食事・通院等の介助、洗濯・掃除等の家事などの支援を行うことにより、その利用者が可能な限り居宅及び安生園において、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるように、介護保険認定者の訪問サービスの利用希望に対して、いつでも対応できる体制づくりに努めた。

また、要支援者に対しては、要介護状態への移行軽減のために、日常生活上の支援に努めた。

4 重点事項

- (1) 利用者のニーズに即応したサービスを提供した。
- (2) 毎月の園内研修において、介護・コミュニケーション技術を向上するための研修を実施した。
- (3) 福祉有償運送事業の定着と総合的なサービスの提供を行った。
- (4) 居宅介護支援事業所等の関連サービスとの連携を図った。

5 事業概要

(1) 事業名 訪問介護事業・介護予防訪問介護事業・福祉有償運送事業

(2) 概要

在宅で生活している高齢者及び安生園利用者で、要支援・要介護者に対して指定訪問介護計画書に基づき、入浴・排泄・食事・通院等の介助、洗濯・掃除等の日常生活に必要な支援を個別に訪問して行った。

(3) 支援目標

ア 指定訪問介護及び介護予防訪問介護は、利用者の要介護状態の軽減、若しくは悪化の防止または、要介護状態にならないよう予防に資するように目標設定し、QOLの維持・向上を目指した。

イ サービス利用計画に基づいた適切なサービスに努めるとともに、利用者または、家族（身元引受人）に対し、サービスの提供方法等について理解できるように説明し、納得してもらうように努めた。

ウ 利用者の心身の状況や置かれている環境等の的確に把握し、お互いの信頼関係を築いた。

エ 自ら提供する指定訪問介護等のサービスの質の評価を行い、常にその改善に努めるように努力した。

6 実績

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

合 計		訪問介護		予防介護	
延利用 人 数 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)
8,583	30,731,690	8,373	29,999,240	210	732,450

(2) 福祉有償運送事業

	福祉タクシー（前年度比）	介護タクシー（前年度比）
走行距離（km）	68.3（+29.8）	5,218（+452）
利用人数（人）	4（-2）	1,804（+977）
輸送回数（回）	12（+6）	1,907（+150）
収入（円）	15,600（+5,620）	611,600（+58,300）
収入合計（円）		627,200（+63,920）

第3-Ⅲ 居宅介護支援事業安生園（居宅介護支援センターあんじょう）

1 概 況

利用者獲得のため関係機関等へのPR活動、また、各事業所、病院、薬局等へのパンフレット配布、設置を展開してきた。

安生園内の利用者については、施設職員との連携により身体機能の低下や介護予防のためのサービス利用を勧めた。在宅利用者については、複数の地域包括支援センターや、事業所、利用者家族等からの新規紹介があった。

また、平成29年度は、介護支援専門員1人減の期間があり、主任介護支援専門員を含む介護支援専門員4人体制の特定事業所加算Ⅱから、主任介護支援専門員を含

む介護支援専門員3人体制の特定事業所加算Ⅲとなる減算時期もあったが、年間の収入は増加となっている。

前年度と比べ、利用者延べ人数が30人の増加となり、居宅介護支援費が1,713,000円の増、認定調査費が280,993円の減、介護予防支援費が37,530円の減、合計1,394,477円の増加となった。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

	管理者 (主任介護支援専門員)	介護支援専門員	臨時 介護支援専門員	計
男			1	1
女	1	1	1	3
計	1	1	2	4

3 運営方針

在宅で生活している高齢者及び安生園利用者が、要介護状態又は要支援状態になった場合においても、可能な限りその居宅等において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように支援した。

4 重点事項

- (1) 介護保険及び事業所の周知し、広報啓発を強化するなど、各関係機関や近隣地域等とのネットワークの強化を図った。
- (2) 制度改正に伴う法令を遵守し、ケアマネジメントの質の向上に努めた。
また、主任介護支援専門員配置に伴う体制の強化を図った。

5 事業概要

- (1) 事業名 居宅介護支援事業
- (2) 概要

介護保険において要介護と認定された方に対して在宅サービスの適切な利用等が可能となるよう、要介護者の心身の状況や環境、意向等を勘案して居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、当該居宅サービス計画に基づく在宅サービスの提案が確保されるよう、事業者等との連絡調整を行った。

また、市町村からの依頼による認定調査、介護保険認定の申請・更新等の申請代行や介護に関する様々な相談に応じた。

- (3) 支援目標

ア 利用者の心身の状況、その置かれている環境に応じ、利用者の選択に基づいた適切な保健医療サービス及び福祉サービスを多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮するように努力した。

イ 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者へ提供

される指定居宅サービス等が特定の種類又は特定の居宅サービス事業者に不当に偏ることのないよう公正中立な立場で行うように意識した。

ウ 市町村、在宅介護支援センター、他の指定居宅介護支援事業者、介護保険等の保健・医療・福祉サービスとの連携に努めてきた。

6 実績

合 計		居宅介護計画		予防介護計画		住宅改修支援		認定調査	
延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (円)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発 行 (円)
1,403	20,629,862	1,205	19,836,560	92	366,840	0	0	106	426,462

第4 障害者総合福祉センターなつどまり

1 概況

平成29年度は、法人の基本理念とともに、各寮において定めた「基本理念」及び「基本方針」に基づき施設運営に努めてきた。

特に、利用者一人ひとりの人権尊重を基本とし、利用者の立場に立ったサービス提供を行うため、各寮の朝の打合せにおいて、「事業団職員倫理綱領」や日本知的障害者福祉協会作成の「知的障がいのある方を支援するための行動規範」等の斉唱を継続的に実施した。

このほか、虐待防止研修、救命講習、感染症防止研修、交通安全講習など、内部（悉皆）研修やSDSチェックリストを毎月実施するなどして職員の継続的な意識啓発等を図った。また、サービス管理責任者研修や強度行動障害支援者養成研修などの外部研修の受講に積極的に取り組み、専門知識の習得とスキルアップに努めるとともに、職員の資格取得を奨励した。

一方、利用者の重度・高齢化に伴う疾病等に対応するため、医療機関や関係機関並びに家族との積極的な連携を行いながら健康管理に努めた。

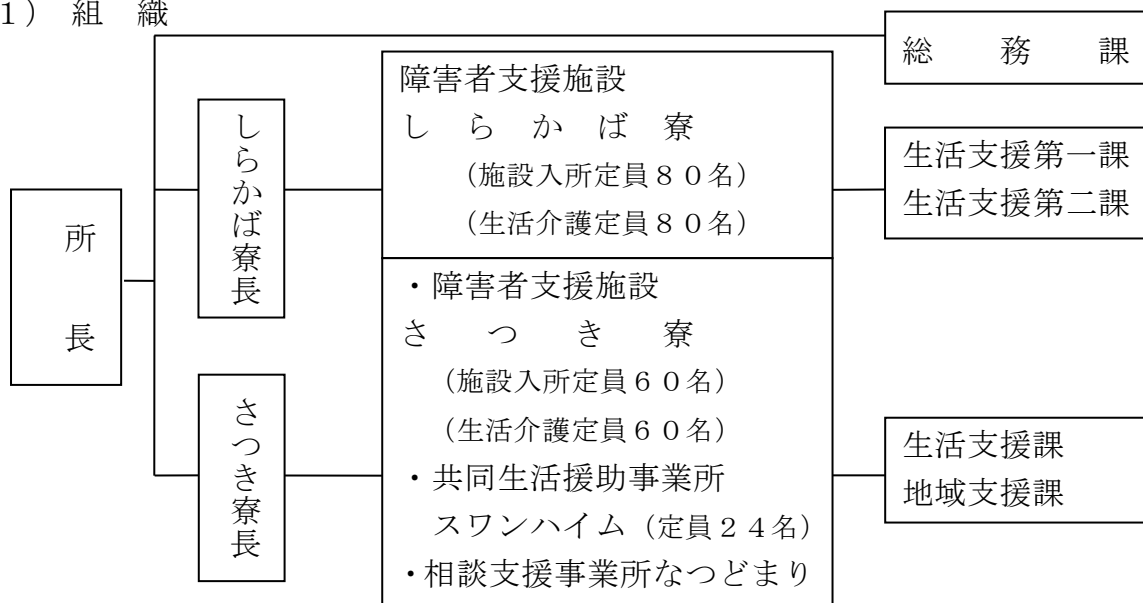
さらに、一人ひとりの利用者が安定した施設生活を送るため、寮内行事（ミニ運動会・さつき寮祭開催）の工夫や身体機能の維持・向上の取り組み（チェアヨガの導入）の他、個別外出の機会を増やすなど個別支援の充実に努めた。

また、事業運営の安定性・継続性を維持していくため、管理会議等においても予算執行状況の報告を行い、事業定員の充足率、利用率を共有するとともに、節電（LED化）・節水対策等の経費節減を図り収支の適正執行に努めた。

人材確保においては、一年を通して応募者の獲得に努めたが、欠員が埋まらない状況が続き、人材不足は利用者支援においても、また働く職員側にも深刻な影響を及ぼしている。人材の獲得が困難となる負の環境は、当面続くものと予想される。

2 組織及び職員の状況

(1) 組織



(2) 職員の状況

(平成30年3月31日)

所属 男女別	総務課	しらかば寮	さつき寮	合計
男	6	28	21	55
女	2	23	20	45
計	8	51	41	100

※1) 非常勤職員（専任当直員）は総務課として集計した。

2) 地域支援課（相談支援専門員含む）職員はさつき寮として集計した。

3) 嘱託医は除いた。

3 重点事項及び援助目標の実施状況

- (1) 利用者の人権尊重、権利擁護及び虐待防止の推進
- (2) 利用者の特性やニーズに即した支援の充実
- (3) 利用者の地域移行の推進及び在宅福祉サービスの充実
- (4) 苦情相談の適切な対応及び事業運営の透明性の確保
- (5) 利用者の安全確保に即した施設整備の促進及び危機管理体制の強化
- (6) 各種事業展開による地域社会、関係機関、家族等との連携強化
- (7) 保健衛生の向上及び安全の確保

- (8) 各事業所の経営基盤確立及びサービス内容の充実強化
- (9) ホームページ等による広報活動の充実
- (10) 制度改正を考慮した施設の体制整備の推進

4 職員研修

利用者に最良の支援を提供するとともに、福祉サービスの質の向上及び職員の資質向上を図るため、職場内研修会（リスクマネジメント、応用行動分析の基礎等）や研究発表会並びに専門研修として職場外派遣研修についても計画的な取組みを実施した。

また、職員個々の資格取得研修を推奨し、人材育成に積極的に努めた。

5 安全・防災管理

(1) 安全対策

ア 利用者の安全確保を最優先として、利用者支援の向上を基本に安心・安全な日常生活が送れるように取り組みを実施し、また、各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、アクシデントレポート等の速やかな報告と検討内容による対応策を講じた。

イ 外部からの不審者等侵入に対する危機管理の観点から、利用者の安全確保を最優先とした、危機管理体制マニュアル（不審者対応）の作成及び周知徹底を図るとともに、不測の事態を想定した不審者等に対する防御用具の使用方法及び対応・実技について警察官の協力を得て訓練を実施した。

(2) 防災管理

ア 職員に対し非常時における対応について防災教育を行い、消防計画に基づいた防災訓練を実施した。また、地域防災協力隊と共に避難訓練を実施し連携強化を図った。

イ 水害・土砂災害を含む非常災害時に備えた防災計画（風水害・雪害）の策定及び職員への周知徹底を図るとともに土砂災害を想定した避難訓練を実施するなど誘導體制の強化に努めた。

6 ボランティア・実習の受け入れ

実習について、人材育成の見地から出来る限り協力し受け入れを行った。また、ボランティアについても、積極的かつ計画的に導入し、施設の機能をより発展させるように受け入れを行った。

第4-I 障害者支援施設しらかば寮

1 概況

平成29年度においても、しらかば寮の基本理念である「利用者一人ひとりが安心して、明るく楽しい生活が送れるように真心を持って支援します」を実現するために、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じ自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めてきた。

今年度の退所者の状況は、1名の方が介護保険対象の施設へ移行し2名の方が長期入院となり復帰見込みが立たず退所となった。

新入所では、さつき寮のグループホームから2名、さつき寮から2名の利用者が入所している。身体機能の低下等により介護度が高くなったことから家族の希望もあり入所に繋がるケースが多く、事業所間の連携によるサービスの向上へと繋がった。

また、医療との連携も重視していることから、県立つくしが丘病院から1名の入所があったが施設の環境への適応が難しく再入院となっている。他に八甲学園から養護学校高等部の卒業を機に1名が入所し、合わせて6名が入所となり定員80名の満床となった。以上の利用者の動きがあったことで、更に重度化が進み障害支援区分の平均が5.4となっており、区分5～6の利用者の割合が全体の85%と年々数値が高くなる傾向にある。

職員研修においては、強度行動障害を有する利用者が33名おり、より専門的な支援を必要とする方が増えたことから、適切な支援と個々の障害特性の理解を高めるために支援者養成研修等に19名の職員を参加させサービスの向上に努めた。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

職名 男女別	寮長	課長	課長代理	主任支援員	副主任支援員	支援員	看護師	臨時支援員	合計
男	1	(1)		3	1	6		17	28
女		1	1	1	1	10	2	7	23
合計	1	1	1	4	2	16	2	24	51

3 利用者の状況及び入退所の状況

	日中活動	再掲(施設入所支援)
(1) 定員	80名	80名
(2) 平成28年度末現在利用者数	76名	77名
(3) 平成29年度内退所利用者数	3名	3名
(4) 平成29年度内入所利用者数	6名	6名
(5) 平成29年度末現在利用者数	79名	80名

(6) 年齢別利用者数

(平成30年3月31日現在)

男女別 年齢別	一課 (一般棟)			二課 (高齢者棟)			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
18～29	12	4	16				12	4	16
30～39	4	5	9	1		1	5	5	10
40～49	3		3	1		1	4		4
50～59	2	10	12	4	1	5	6	11	17
60～69	2	3	5	10	8	18	12	11	23
70～79				2	5	7	2	5	7
80以上				1	2	3	1	2	3
計	23	22	45	19	16	35	42	38	80
平均年齢	34.4	45.6	40.0	62.4	68.5	65.3	47.4	55.6	51.4

(7) 障害支援区分別利用者数

(平成30年3月31日現在)

男女別 障害支援区分別	一課 (一般棟)			二課 (高齢者棟)			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
非該当									
区分1									
区分2									
区分3									
区分4		4	4	3	5	8	3	9	12
区分5	7	4	11	10	4	14	17	8	25
区分6	16	14	30	6	7	13	22	21	43
計	23	22	45	19	16	35	42	38	80

4 運営方針

「しらかば寮」は、これまで利用者一人ひとりの人権を尊重しつつ、安心して明るく楽しい生活の場にするために、個々の能力や適性に応じたサービスの提供に努めてきた。

平成29年度の運営にあたっては、利用者の人権尊重、権利擁護及び虐待防止の一層の推進を図り、法令順守の徹底に努める。また、強度行動障害を持つ利用者や高齢利用者の認知レベルの低下など、障害特性に即した個別支援計画を模索し支援目標の達成に向け必要な福祉サービスの提供に努める。

重度の利用者の入所が見込まれ、障害支援区分の平均値が年々高くなったことで、重度障害の対応が複雑となり、さらにきめ細かな個別のサービスが求められるため、感覚刺激や活動場面での構造化を図りながら質の高いサービスの提供に努める。

高齢となり認知症、嚥下機能の低下、カテーテル増設、胃ろうなど医療的支援が必要な利用者に対しては、介護の状態に応じて家族や医療、介護サービス事業所との連携を図りながら、介護施設への移行等も視野に入れ適切なサービスの実践に取り組む。

また、施設管理の適切な維持保全に努めながら、利用者が安全に安心してより快適に暮らせるよう生活環境の整備を図るとともに、事業運営の透明性の確保と、家庭や地域との結びつきを重視した開かれた事業所として一層の充実に努める。

さらに、積極的に施設の情報発信を行い、実習生や地域住民のボランティアを受け入れ、地域で開催される行事への参加や地域防災協力隊や住民との研修会、交流会を通して連携を図る。

5 重点事項

- (1) 利用者の人権尊重、権利擁護及び虐待防止の一層の推進
- (2) 利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実
- (3) 医療・看護ケアの充実並びに安全の確保
- (4) 日中活動系サービス及び居住系サービスの質の向上
- (5) 苦情相談への適切な対応
- (6) 家族等との連携強化
- (7) 施設・環境の整備
- (8) 事業運営の透明性の確保
- (9) 地域社会との連携
- (10) 合理的配慮並びに意思決定支援の推進

6 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、生産活動の機会の提供などを行った。

ア 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、

支援目標の達成に向けた支援を実施した。また、自閉的特性を有する利用者への支援手法として、個別の活動スペースの確保や物理的環境の整理と視覚的支援を行った。

イ 班編成による創作的活動、生産活動の支援の実施

① リサイクル班

物理的環境の整備を行ったことで、これまで作業に集中できなかった利用者さんも作業内容を理解し参加できるようになった。また、高齢となっても作業を生きがいとしている利用者さんも参加できるよう支援体制を

整え安心、安全に作業を進められるよう配慮した。

② 創作班

塗り絵や行事用の飾り作り（七夕飾り、花チリの雪だるまなど）、パズルやブロックを使った手指運動、体育館でのマラソンやトランポリン運動など、個々の障害程度の差や老化等に合わせた内容で実施した。

③ 生活リズム班

ADL等の自立度による個別支援に沿った歩行、リズム遊び等を通して健康面への配慮や体力維持、怪我の予防等に考慮し実施した。また、体育館での運動を取り入れ活動の幅を広げた。他に音楽鑑賞、ブロック、屋外歩行、ライトコートでの日光浴も継続して取り組んだ。

④ 介護予防班

曜日ごとに活動内容を変え、「全体レクリエーション」「個別リハビリテーション」「趣味活動」の他、利用者のADLや障害特性に配慮し、ブロック、パズル、寮内歩行、カラオケやDVD鑑賞等の趣味活動を実施した。また、天気の良い日には屋外歩行を実施した。

ウ 健康衛生の向上

① 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴い、生活習慣病と共に廃用症候群等の出現への対応が課題となってきた。特に糖尿病、脂質異常を発症する人が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し予防に努めるとともに、生活習慣病を予防するため、肥満者を対象に肥満食を提供し、毎月体重測定と運動の励行を行った。

また、歯科衛生士会によるブラッシング指導を年3回行い、歯磨き及び介助歯磨きの研修を実施した。

② 医療状況

- ・ 嘱託医診療 対象者～全員
- ・ 精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回（金曜日）

③ 検診状況

- ・ 対象者 全員
- ・ 検診内容 血液検査・心電図・結核検診・血圧測定：年2回、尿検査：年2回、耳鼻科検診・歯科検診：年1回、各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施）：年1回

④ 感染症予防対策

一年をとおして各棟に手指消毒器を設置したほか、感染性胃腸炎の予防とまん延防止対策として、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、小型噴霧機、処理マニュアル）を常備し、感染症マニュアルに沿った感染予防に努めると共に、利用者の状況にあったマ

マニュアルの見直し等を行った。また、各ホームには利用者の医療（病歴・服薬）一覧と感染症発症時対応マニュアル、応急手当マニュアル等を備え、職員研修を実施し対応方法の周知を行い、利用者の安全と健康管理に努めた。

⑤ 通院状況

通院状況			服薬者状況
科別	区分	実人員	延回数
内科		58	475
精神科		56	662
耳鼻科		3	11
歯科		20	147
皮膚科		4	4
外科		7	14
整形外科		16	144
眼科		3	4
泌尿器科		3	34
乳腺外科		1	1
呼吸器科		1	4
消化器科			
合計		172	1,500

⑥ 入院状況

科別	区分	実人員	延日数	病名
内科		4	76	全身衰弱、気管支鏡検査、PEG交換
整形外科		1	95	左大腿骨頸部骨折
精神科		2	150	心因反応
合計		7	321	

エ 音楽療法の実施（実施日・場所）

- ① 個人セッション →月1回 水曜日の午前（一課利用者 3名）
 （面会室） （二課利用者 1名）
 実施回数 12回
- ② グループセッション→月3回 火曜日の午前（一課利用者 4名）
 （二課食堂） （二課利用者29名）
 実施回数 35回

オ チェアヨガ活動

身体機能の衰えが顕著と成って来た事から、チェアヨガの講師を月2回招き椅子に座っての簡単なストレッチを行うことで脳への刺激も高まり、利用者の身体機能だけではなく、脳への良い刺激ともなっている。

カ 個別及びグループ毎の外出の支援

利用者の外出希望になるべく沿うように、各種催し物等の開催状況を掲示するなど情報提供しながら計画し公用車を使用して実施した。また、今年度は家族外出を希望する保護者と利用者、職員も一緒に同行の外出を実施し、3家族が利用した。

(2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、日常生活上の支援を行った。

ア 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、支援目標の達成に向けた支援を実施した。

イ 余暇活動・趣味的活動等の充実

① 個別及びグループ毎の外出の支援

公用車(マイクロバス等)を利用し、土・日小湊地区(マックスバリュ平内店など)を中心に買物等を計画し実施した。また、個別外出については希望に応じて随時実施した。

② 招待外出

3月に夜越山洋ラン祭りへ4回に渡り一課24名、二課18名の利用者が招待を受け参加した。

③ 外部講師による活動の支援

・書道

実施日：月2回(第2、4金曜日) 18:30~19:30

参加者：一課利用者 1名、二課利用者 8名

ウ 生活環境の整備

① リネン・寝具交換

平成24年度から、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。

シーツ等1回/週、タオルケット・肌掛けカバー1回/月、布団カバー1回/月、掛け・敷き布団1回/年の交換を行った。

② 洗顔用具等の洗浄

歯ブラシ、コップ等を週1回消毒、洗浄し、個々の洗面棚に保管するなど衛生管理に努めた。

③ 居室等の大清掃

空調設備及び、各居室のエアコンの掃除を実施した他、春の大掃除と年末のすす払い、居室等の大清掃を利用者と一緒に2回実施した。また、

委託業者による特別清掃を年6回実施した。

④ 室温等の管理

空調が完備されており、冬期間の乾燥対策として、各ホームに加湿器等を配置し湿度の調整を行ったことにより快適に過ごすことができた。

(3) 利用者の権利擁護の推進

ア 苦情相談システムの利用促進

苦情件数については18件であったが、複数件の苦情申し出があったこともあり、以下の表のとおりであった。

苦 情 内 容	件数
サービスの質や量(食事内容、サービス提供に関する不満など)	2
利用者間の人間関係など	6
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	0
被害/損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	1
病気/怪我/医療面	3
その他(上記以外のもの)	6
合 計	18

イ 利用者への情報公開・情報提供の充実

掲示板の活用や口頭での情報提供を行った。また、写真やパンフレット等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用した。

ウ 基本的権利行使への配慮

10月に実施された衆議院選挙解散選挙へは、当日5名が投票所へ出向き投票を行った。

(4) 地域交流

職員の救急救命講習会の開催に合わせ、今年度初めて地域防災協力隊の方々に案内したところ5名が参加した。

(5) 家族との連携

利用者が心豊かな生活を営み過ぎていくためには、ご家族の理解と協力が不可欠であるため、月の第三日曜日に面会日を設定した。また、一時帰宅等についても可能な範囲での協力をお願いしている。

ア 利用者個別支援計画

利用者個々の支援計画については、その内容をご家族と十分協議しながら設定した。また、支援経過についても面会日等を通じて随時家族に説明し、面会が難しい場合は電話等や書面により対応した。

イ 面会日等における対応

- ① 4月16日（日）全体懇談会（事業計画、運営方針）と支援計画等について個別懇談
- ② 9月10日（日）支援計画に基づいた支援状況の報告についての個別懇談
- ③ 11月19日（日）なつどまり研究発表会と支援計画等について個別懇談
- ④ 3月4日（日）全体懇談会と支援状況報告及び支援計画立案についての個別面談

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、インシデントレポートの他、各ホームで簡易なヒヤリハットレポートの提出と検討を重ねた結果、事故報告に繋がる大きな怪我等が減ってきた。

事 故 内 容		アクシデント 件数	インシデント 件数
医療関係	急病（救急車搬送等）		
	誤飲・誤嚥		3
	誤与薬	3	
	その他 （医療機関への連絡ミス）		
事故関係	転倒・衝突（救急搬送）		
	転倒・衝突（通院・入院）	2	
	転倒・衝突	55	43
	その他 （打撲、飲みこぼし、不明）	28	15
介護関係	転倒（通院・入院）	1	
	転倒	3	8
	異食	4	9
	残薬、落薬、飲み忘れ	22	37
	その他 （バルン抜去、爪切りによる創傷、配薬ミス等）え	17	28
外出関係	無断外出（敷地外）		
	集団離脱（敷地内）		1
利用者関係	他害	13	5
その他（支援員室、他室への侵入）		7	17
合 計		155	166

(7) 職員研修

今年度は、強度行動障害基礎研修に12名、実践研修に6名の職員が参加した。また、なつどまり内での研修として「応用行動分析の基礎」、「アンガーマ

ネジメント研修」等を開催し、職員の障害への理解向上に努めると共に、事業団事務局が主催する法人内研修や他団体主催の県内外の研修等に参加した。

(8) 行事の実施状況

内 容	実施期間	参加人数	備考(行先など)
たのしみっこ	4月22日	全利用者	開所日
一課外出	4月28日	1名	戸田書店他
花見会	5月7日	全利用者	開所日
二課ブラッシング指導	5月20日	34名	寮内にて実施
春の大掃除	5月21日	全利用者	開所日
一課親子外出	5月31日	2名(保護者含)	愛宕公園
一課外出	6月12日	1名	びっくりドンキー青森浜田店
一課外出	6月13日	1名	くら寿司青森緑店
一課外出	6月15日	2名	サンロード
一課外出	6月20日	2名	ラ・セラ
二課外出	6月23日	3名	夜越山公園他
一課外出	6月27日	1名	サンデー虹ヶ丘店他
二課外出	6月27日	1名	梅沢富美男コンサート
七夕会	7月2日	全利用者	開所日
一課親子外出	7月9日	2名(保護者含)	浅虫水族館他
一課外出	7月10日	4名	青い森アリーナ他
一課外出	7月14日	4名	青い森アリーナ他
一課ブラッシング指導	7月15日	8名	寮内にて実施
一課外出	7月19日	3名	青い森アリーナ他
一課外出	7月21日	4名	八甲学園(夏祭り参加)
一課外出	7月21日	1名	夜越山公園
二課外出	7月21日	2名	サンロード青森
たのしみっこ	7月22日	全利用者	開所日(調理実習)
なつまつり	7月30日	全利用者	開所日
一課外出	8月19日	1名	就労サポートさつき(運動会見学)
納涼会	8月20日	全利用者	開所日
障害者スポーツ大会	8月27日	9名	昼食時外食

二課外出	8月30日	11名	わくわく動物園
二課長寿を祝う会	9月2日	全利用者	寮内行事（開所日）
一課長寿を祝う会	9月4日	胃瘻利用者以外全員	すたみな太郎外食
一課外出	9月8日	1名	マクドナルド イトーヨー他
一課外出	10月18日	1名	かつぱ寿司青森浜田店
一課外出	10月19日	1名	昭和大仏他
ミニ運動会	10月25日	全利用者	開所日
たのしみっこ	10月28日	全利用者	開所日
二課外出	10月30日	3名	サンロード青森
たのしみっこ	11月23日	2名(保護者含)	ワラッセ
一課ブラッシング指導	12月1日	11名	寮内にて実施
利用者忘年会	12月3日	全利用者	開所日
一課外出	12月19日	1名	美容室他
クリスマス会	12月23日	全利用者	開所日
冬の大掃除	12月29日	全利用者	開所日
正月っこ	1月2日	全利用者	開所日
雪見会	1月13日	全利用者	開所日
製作（おにの面）	1月21日	全利用者	開所日
節分	1月28日	全利用者	開所日
一課親子外出	1月28日	2名(保護者含)	浅虫駅前食堂
一課外出	1月28日	1名	青森リンクステーション
桃の節句	3月3日	全利用者	開所日
一課洋ラン祭り外出	3月8日	13名	招待外出
一課洋ラン祭り外出	3月9日	11名	招待外出
二課洋ラン祭り外出	3月12日	8名	招待外出
二課洋ラン祭り外出	3月13日	10名	招待外出
班活動慰労会	3月15日	全利用者	

(9) 日中一時支援事業

ア 概況

平内町の委託事業として在宅家族の介護負担を軽減するため利用者に活動の場を提供し見守りや社会適応するための日常生活訓練を行う事業である。

イ 利用状況

利用件数 1件 延べ日数 1日間

第4-II 短期入所事業しらかば寮

1 概況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、空室があった場合のみサービスを提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業所を実施した。

2 利用状況

利用件数 4件 延べ日数 56日間

4-Ⅲ 障害者支援施設さつき寮

1 概況

平成29年度は、昨年度から継続して利用者の人権尊重と権利擁護を推進するとともに基本理念に則って、利用者が自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めた。とりわけ生活介護事業においては、昨年度と同様の4班（ゆとり加工班、加工班、クリーニング班、きのこ班）の活動を継続しながら、生産活動、日常生活上の支援を個々の特性等に配慮しながら行った。

また、自閉的傾向、強度行動障害を有する利用者がより安定した日常生活を送ることができるように職員内部研修を断続的に実施し、支援の強化を図った。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

職名 男女別	寮長	課長	課長代理	副主任 支援員	支援員	看護師	臨時支援員	合計
	男	1		1	1	4	1	10
女		1		1	4	1	3	10
計	1	1	1	2	8	2	13	28

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

(平成30年3月31日現在)

年度	内 容	生活介護	施設入所
28	定員	60	60
	新契約者数	4	5
	解除者数	3	2
	年度末利用者数	65	62
29	定員	60	60
	新契約者数	2	2
	解除者数	5	3
	年度末利用者数	63	61

(2) 年齢別利用者数

(平成30年3月31日現在)

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19	1	1			2
20～29	10	2		1	13
30～39	5	4			9

40～49	7	2	1		10
50～59	10	6			16
60～以上	7	6			13
合計	40	21	1	1	63
平均年齢	44.7	49.3	46.0	26.0	46.8
最高年齢	70	78	46	26	
最低年齢	19	19	46	26	

(3) 障害支援区分別利用者数

(平成30年3月31日現在)

障害支援区分	入所利用者	通所利用者	合計
非該当			
区分1			
区分2			
区分3	6		6
区分4	29	1	30
区分5	21		21
区分6	5	1	6
未判定			
合計	61	2	63

4 運営方針

さつき寮基本方針に基づき、職員は日々の会話や行動から利用者一人ひとりの人権と意思を尊重し、その能力や適性に応じて、できる限り自立した生活を営む事ができるように、潤いと生きがいのある生活の場とするためのサービスの提供に努めた。

また、障害の多様化と高齢に伴う認知機能や身体機能の低下には、医療機関やすこやか苑の理学療法士と連携しながら健康管理に努めた。

更に地域とともに歩む施設づくりを推進するため、関係機関・団体等と連携し、地域福祉の拠点として開かれた事業所としての充実を図った。

障害者虐待防止については、なつどまり虐待防止規程の周知徹底を図り、SDSチェック表（自己啓発チェック表）を提出することで支援内容、言動、職員相互の支援を振り返りながら徹底した。

5 重点事項

(1) 利用者本位のサービスの提供

全職員が日頃から利用者の意見・希望等に耳を傾け、文字通り利用者本位のサービスの提供に努めた。

(2) 利用者の人権尊重と権利擁護

各種職員会議においても啓発を強化し、職員一人ひとりの意識強化・実行に努めるとともに、全職員が「人権侵害ゼロへの誓い宣言」書に記名・捺印することで意識表明した。

(3) 利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実

利用者支援等のマニュアルについて整備や見直しをし、支援システムソフトを定着させ、個別支援への効率化を図った。

(4) 日中活動系サービス及び居住系サービスの質の向上

「サービスの質の向上について」「自閉傾向の強い利用者について」の委員会を寮内に設置し、開催・検討の上、サービスの質の向上に努めた。

(5) リスクマネジメント意識の強化及び虐待防止に努める

リスクマネジメントに関する研修への参加のほか、リスクマネジメント委員会を所内・寮内に設置し、開催・検討の上、意識の強化に努めた。

(6) 地域社会との連携（地域貢献）

平内町清掃奉仕作業、クリーン・キャンペーン・in・平内町でのボランティア活動による地域貢献のほか、平内町夏祭り・文化祭への参加、地引網体験交流、なつどまり夏祭り、防災訓練等により地域社会・地域住民との連携を図った。

(7) 利用者の健康管理の充実と安全確保

毎週月曜日午後に「スポーツ活動」として体育館での球技やウォーキング、平日の夕方に「介護予防運動」を実施した。また、身体機能低下及び認知傾向のある利用者支援についての委員会を設置し、看護師を中心にすこやか苑理学療法士の助言を得て、各自のメニューに沿って機能訓練も実施した。

(8) 苦情相談への適切な対応

苦情相談に関しては、なつどまり苦情解決事業実施要綱に基づいて、毎月相談日を設定・掲示し、利用者へ周知・受付・協議するとともに、日常的な意見等の申し出に対しても常日頃から細かな対応を図った。

(9) 利用者自治会活動の推進

自治会役員については、任期二年、自薦による投票で選ばれており、役員より外出や行事に関して議題が上がり、その都度協議の上、実施・開催し、活動の推進に努めた。

(10) 事業運営の透明性の確保

事業計画、事業報告等に関しては、全体会議等で検討し、職員の意見を反映させた。また、予算、決算等についても随時会議等で周知しているほか、各種通知等も職員へ随時配付・回覧し、周知を図った。

6 事業の実施状況

(1) 日中活動系サービスの実施状況（生活介護）

ア 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

イ 開所日の設定

日常生活としての買物、社会見学、社会参加（ボランティア等）、余暇活動（映画上映・カラオケ・調理実習等）を休日開所日として実施した。

ウ 班活動

① ゆとり加工班

加工班から提供を受け個々の特性に合わせた軽作業を行い、工賃を支給し、気分転換や精神的安定を図りながら、継続して活動へ取り組むことを目的とした。

作業室、多目的室、食堂の3か所の作業場所を予定していたが、職員配置により多目的室と食堂の2か所で実施することが多くなった。飽きずに作業できるように、作業内容を固定せず流動的に選択できるようにした。個人のスケジュール等、個々の特性に配慮し、集中して活動へ取り組めるよう支援に努めた。

② 加工班

旧館の活動場所まで歩行し移動出来る利用者を中心に作業（銅線加工、古紙選別、ホタテロープピン刺し等）を行い、資源として納品し、収入を得ることで工賃をもらい、働くことへの喜びと達成感が得られるよう支援した。

今年度は、主に①一年を通して資材を確保し活動が出来るようにする、②古紙類の仕分けを徹底することで作業工程を増やし納品回数を増やす、③作業場の整理整頓を心掛け広々とした場所で活動出来るようにする、の3つに重点を置き活動した。

③ きのこと班

しいたけ栽培・販売を通して、健康増進や体力維持と併せて働く喜びを感じる事が出来るよう支援した。班利用者の人数が減り、利用者一人の仕事内容が増えたことと、高齢化に伴い体力の維持が課題となってきた。

④ クリーニング班

体力に自信はないが、衣類をたたむ事が出来る利用者がクリーニング作業を行い、働く喜びを感じる事でこころの安定（やすらぎ）を図った。

また、なるべく一人の利用者に負担をかけず、利用者全員が同じ作業工程を行うことができるよう、職員が作業を教えながら見守り、一人で行うことができるよう支援した。旧館のクリーニング室から新館のさつき寮まで移動距離があるため、安全に気を付けながら移動や台車運搬をした。

(2) 居住系サービスの実施状況（施設入所支援）

余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援のほか、書道教室及びさつき寮祭に向けた

作品の作成等、余暇支援を行った。

(3) 健康管理

ア 医療状況

医療体制は、嘱託医（精神科）1名と内科医への受診（月1回 ひきち内科クリニック）、看護師で健康管理の充実に務めた。通所2名の健康管理も含め、利用者全般の健康維持の推進に努めた。

緊急時対応として応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、支援員室に備えるとともにAED（職員は全員AED講習受講済み）と誤嚥、のどつまり時対応用に口腔吸引ノズル付き掃除機（掃除用とは別の掃除機）と吸引器を職員室に設置し緊急時の対応に備えた。

疾病の早期発見、早期治療として、各癌検診（胃癌、大腸癌、子宮癌、乳癌）のほか、結核検診、心電図、血液検査、尿検査、血圧測定を実施した。

平成29年度は、職員2名がインフルエンザに罹患したが、早い時期からのマスク着用と手洗い、うがいの励行、注意喚起により利用者に罹患者は出なかった。

ノロウイルス、急性胃腸炎は、居室を初めとする生活空間に次亜塩素酸水を毎日（11月～5月まで）噴霧することと、毎食後に除菌ウエットタオルで行う消毒清掃の継続等により発症者は出なかった。

今年度は、青森市歯科衛生士会の協力で利用者の歯磨き指導と職員の仕上げ磨き講習を2回実施した。また、各寮に医療一覧、感染症発症時対応マニュアル等を備え利用者の健康管理に努めた。

なお、利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であるとともに、廃用性症候群の出現への対応が課題となってきている。特に脂質異常を発症する方が増えてきており適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩、間食のとり方を見直し標準体重に近づけることを目標とした。

また 身体機能低下がみられてきた利用者の支援として、機能訓練の指導、助言を行なった。

- ① 嘱託医診療 対象者～全員
精神科（つくしが丘病院） 月2回（第2、第4木曜日）
- ② 検診 対象者～全員
血液検査、心電図（年2回） 結核検診（年1回）
血圧測定 尿検査（年1回）
各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ本人負担）
- ③ インフルエンザ予防対策 対象者～全員

インフルエンザワクチンの接種（施設負担）、抗菌マスク、微粒子マスクを用意しマスクの励行を指導。含嗽剤でのうがい、手洗い、アルコール手指消毒器の使用、換気、大型加湿器による環境整備を行い予防対策に努めた。また使い捨て予

防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し発症時対応に備えた。

④ その他

手指消毒器をホール、廊下に設置して手指消毒指導し、朝、夕に食堂のテーブル、イス、床、手すり、ドアノブ、スイッチ類の消毒清掃を行い食中毒などの感染症の予防対策を強化した。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、次亜塩素酸水を居室、ホール、トイレ、廊下に毎日噴霧した。また、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、嘔吐物凝固剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て防衣、使い捨てシューズカバー、処理マニュアル）を各棟に用意し、感染症マニュアルに沿って感染予防に努めた。

イ 各癌検診の状況

検診名	要精密検査者	内 訳
胃 癌	2名	再検査し異常なし
大腸癌	2名	2名共再検査し異常なし
子宮癌		
乳 癌		
結 核	4名	4名共再検査し異常なし

ウ 通院・服薬者状況

通 院 状 況			服 薬 者 状 況	
区分 科別	実人員	延回数	区分 科別	実人員
内科	38	359	内科	26
内分泌内科	1	5	内分泌内科	1
精神科	37	528	精神科	39
耳鼻科	3	17	耳鼻科	
歯科	11	68	歯科	
皮膚科	8	35	皮膚科	
外科	4	9	外科	
整形外科	8	23	整形外科	
眼科	5	16	眼科	
泌尿器科	3	27	泌尿器科	2
脳神経外科	1	1	脳神経外科	
婦人科			婦人科	
心臓血管外科			心臓血管外科	
循環器科	1	1	循環器科	
合計	120	1,089	合計	68

エ 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病名
精神科	4	301	適応障害、心因反応、反応性精神病
内科	2	25	肺炎、肺腫瘍
神経内科	1	8	てんかん発作
合計	7	334	

オ 肥満状況

	男	女	合計
18.5未満（やせ）	7	1	8
18.5以上～25未満（正常）	24	16	40
25以上～30未満（肥満1）	9	2	11
30以上～35未満（肥満2）		2	2
35以上（肥満3）			
合計	40	21	61

・BMIの数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。

$$BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)})$$

(4) 利用者の権利擁護の推進

相談の受付は本人からの申し出と施設内の意見箱から、毎月1回、第三者委員3名の輪番による体制とした。

平成29年度苦情解決協議会は、前期分を平成29年10月27日、後期分を平成30年2月23日に実施し、利用者代表、保護者代表出席のもと、事例の内容を協議した。今年度、苦情相談日においてさつき寮利用者からの苦情相談は無かったが、利用者間の対人関係について「事業団理事長に話したい」と本人が直接事業団事務局へ電話したのが1件あり、対応策を説明し了承を得ている。障害者虐待防止法に基づく「なつどまり虐待防止規程」における事案はなかった。

(5) 地域交流

ア 小中学校・高等学校との交流を実施

日時	内容	利用者数	引率者数
5月14日	西平内中学校運動会	12名	3名

今年度は雨天ため、山口小学校運動会には参加できなかった。

イ 地域への奉仕活動の充実

4月22日、平内町役場が主催する夏泊半島の道路のゴミ拾い活動に事業団職員・さつき寮利用者が合同で参加した。

10月28日、平内町商工会が主催する平内町民文化祭準備に参加した。

(6) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、支援会議等で検討するとともに利用者の事故防止に努めた。

<アクシデントレポートの提出状況>

事 故 内 容		件 数
医療関係	急病（救急車搬送等）	
	誤飲・誤嚥	4
	誤与薬	
事故関係	転倒・衝突（通院・入院）	3
	転倒・衝突	10
	その他	
介護関係	転倒・衝突（通院・入院）	1
	歩行不安定による転倒	13
外出関係	無断外出（敷地外）	
	集団離脱（敷地内）	
利用者関係	他害・器物破損	8
その他	打撲・自傷・擦り傷	8
合 計		47

(7) 家族との連携強化

① なつどまり育成会との連携強化

育成会の総会は6月の面会日に行った。また、11月の面会日に併せてなつどまり研究発表会を開き、保護者へ支援の状況を披露した。

② 家族への情報提供の充実

平成29年度は、面会日のお知らせとともに、さつき寮通信（各ホーム主担により作成）にて生活環境の様子を写真や文章でさつき寮の様子を伝えた。また、毎月定期的に各ケース担当から利用者さんの保護者へ近況をお知らせするとともに、状況変化等の際には随時連絡を行った。

(8) 職員研修

なつどまり内での学習会に積極的に参加し障害者の理解向上に努めるとともに、事業団事務局が主催する法人内研修と県内外の研修等に参加した。施設内研修では、虐待防止についての研修を実施した。

また、なつどまり研究発表会では、さつき寮の研究事例を発表した。

(9) 行事の実施状況

(平成29年)	
4月 7日	健康診断
4月22日	平内町清掃ボランティア・シアター上映会
4月29日	花見会
5月 3日	プロレス観戦
5月20日	西平内中学校運動会・希望の会慰問
5月27日	茂浦漁港地引網体験交流会・カラオケ大会
6月 7日	消防訓練
6月18日	なつどまり育成会総会
7月 2日	さくらんぼ狩り体験・シアター上映
7月15日	夏の大掃除
7月27日	日帰り旅行(十和田方面)
7月30日	なつどまり夏まつり
8月 7日	青森ねぶた観覧
8月10日	夏季一時帰省(～17日)
8月14日	わくわく動物ランド・かき氷会
8月15日	バーベキュー大会・平内町流し踊り参加
8月16日	すいか割り・種飛ばし大会
8月19日	クリーン・キャンペーン・in・平内 夜越山パークゴルフ体験・かき氷&カラオケ大会
8月27日	県障害者スポーツ大会(陸上)
8月29日	一泊旅行(岩手方面)
9月13日	胃癌健診
9月15日	総合避難訓練
9月23日	レクレーション大会
9月24日	県障害者スポーツ大会(ボーリング競技)
9月28日	一泊旅行(弘前方面)
9月30日	スポーツフェステバル
10月11日	健康診断
10月14日	ブラッシング指導
10月22日	さつき寮祭
10月24日	日帰り旅行(十和田方面)
11月11日	シアター上映会
11月19日	研究発表会
11月20日	忘年会
11月25日	県庁生協展示会
12月 9日	冬の大掃除

12月23日	さつき寮クリスマス会
12月24日	冬季一時帰省（～1月3日）
12月31日	年越し会
（平成30年）	
元旦	お楽しみ会
1月 2日	カラオケ大会
1月 6日	初詣外出・シアター上映会
1月10日	餅会
1月13日	初詣外出・シアター上映会
1月20日	ホットケーキ調理実習
1月27日	たこ焼き調理実習
2月 5日	節分集会
2月20日	防災訓練
2月24日	ねむのき冬祭り・ビデオ鑑賞会
3月 2日	ひな祭り会
3月 6日	日中活動班慰労会
3月 7日	夜越山洋ランまつり観覧
3月17日	カラオケ大会
3月31日	シアター上映会

(10) 工賃支給状況

生活介護班活動に従事した利用者全員を対象に、「工賃支給要綱」を定め工賃を支給した。（11月・3月は一時金も支給）

（金額単位は円）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生活介護工賃	182,320	191,040	222,190	198,000	166,730	180,820	182,900	197,750
支給者数	64	64	61	63	63	63	64	64

項目／月	上期一時金	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合計	月平均
生活介護工賃	343,900	196,710	172,790	207,390	246,160	713,240	3,401,940	4,500
支給者数	(65)	62	62	63	63	(65)	756	

第4-Ⅳ 短期入所事業さつき寮

1 概況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行う。

2 事業の実施状況

平成29年度は利用が無かった。

第4-Ⅴ 指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所 障害者総合福祉センターなつどまり「スワンハイム」

1 概況

利用者の意思と人権を尊重しながら、自立した地域生活を営むことができるように、計画に基づいたサービスの提供に努め、市町村、関係機関等との連携はもとより、八甲学園サンハウスをはじめとする「あおもりグループホーム連絡協議会」との情報共有並びに支援環境の整備等を行い、安定した事業の運営を図った。

平成29年度は、利用者の社会生活向上と地域生活における交流を推進しながら、障害の多様化と高齢化に伴う認知機能の低下、更には消防法改正や建築基準法に適合した安全な住居のため、平成29年7月より世話人を職員化し、老朽化した2棟の運営を終了の上で、6棟あった建物を4棟とし、それに伴い定員を30名から24名とした。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

職名 男女別	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	世話人	計
男	(1)	1	1	0	2
女	0	0	1	8	9
計	(1)	1	2	8	11

() は他事業管理者兼務

3 事業実施状況

現在は、入居定員24名で共同生活援助利用者22名が利用している。

一般就労者5名、就労継続支援A型事業利用者3名、就労継続支援B型事業利用者14名が利用している。

利用状況一覧

(平成30年3月31日現在)

名称	住所	定員	利用者
スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊72-2	6名	男6名
第3スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊160-2	6名	男2名 女3名
第5スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊79-27	6名	男2名 女3名
第6スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字愛宕29-25	6名	男6名
計	4ヶ所	24名	22名

第4-VI 相談支援事業所なつどまり

1 概況

障害者及び障害児並びにその保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な相談支援を実施し、平成30年3月31日現在の計画相談件数は218件である。

利用者の置かれている状況や環境等に応じた、利用者等の選択に基づいた適切な障害福祉サービス等を、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供し、地域資源との連携及び地域資源の開発を図るとともに、市町村等との連携を行った。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

職名 男女別	管理者	相談支援専門員	補助員	計
男	(1)	1	0	1
女	0	0	1	1
計	(1)	1	1	2

() は他事業サビ管兼務

3 事業の実施状況

① 障害種別利用者人数 (重複あり)

(平成30年3月31日現在)

	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	重症心身障害	他
障害者	217	195	38	20	17	0	0
障害児	1	1	0	0	1	0	0
計	218	196	38	20	18	0	0

② 相談方法 (実人員に対して重複あり)

(平成30年3月31日現在)

	訪問※	来所	電話	同行	個別支援会議	計
件数	323	0	25	9	33	390

※各市町村指定月のモニタリング訪問含む。

③ 利用者別相談件数 (平成30年3月31日現在)

	しらかば寮	さつき寮(通所含む)	スワンハイム	他施設、事業所等	計
平内町所管	4	7	5	54	70
他市町村	69	53	17	9	148

⑤ 計画相談請求件数 (平成30年3月31日現在)

	サービス等利用計画	モニタリング報告書	計
請求件数	83	264	347

第5 青森県長寿社会振興センター

I 概況

少子高齢化の進展などから、本県の高齢化率は全国を上回る速さで進んでいるが、その約8割は介護保険を利用しない“元気な高齢者”である。特に、平成21年度から大量に定年退職した、いわゆる団塊の世代を含む元気な高齢者の生きがいと健康づくりの支援は、ますます重要な課題となっている。

平成29年度も引き続き、青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を目標に、高齢者一人ひとりが、心身ともに「すこやか」に「自立」し、住み慣れた地域において、安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現を目指すことを基本理念に、生きがいと健康づくり及び仲間づくりに関する事業の積極的な展開を図った。

II 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

職名 男女別	所長 (理事長兼務)	副所長 (常務理事兼務)	推進 課長	事務員	臨時 事務員	非常勤 事務員	計
男	1 (兼務1)	1 (兼務1)	1		1		4
女				2	2	1	5
計	1 (兼務1)	1 (兼務1)	1	2	3	1	9 (うち兼務2)

※公募事業 青森シニアカレッジ非常勤事務員1名含む。

III 事業概要

1 高齢者のスポーツ、健康づくり及び地域活動等を推進する事業

(1) 全国健康福祉祭派遣事業

高齢者の健康増進及び生きがいの高揚を図るために開催される第30回全国健康福祉

祭あきた大会に選手を派遣した。

- ①会 期 平成29年9月9日(土)～12日(火)
青森県選手団は、前泊のため8日(金)出発
- ②開催地 秋田県(秋田市ほか)
- ③派遣内容 ◎スポーツ交流大会(10種目)
◎ふれあいスポーツ交流大会(9種目)
◎文化交流大会(2種目)
◎その他(シンポジウム、美術展への出品)

④派遣人員 約146名（選手140名、役員6名）

⑤選考方法 前年度のシニアフェス上位入賞者より選考、当センターで選考が難しい種目は当該団体に推薦してもらい選手を決定した。

(2) 第19回あおもりシニアフェスティバル（県健康福祉祭）開催事業
県内高齢者のスポーツ、文化活動等の祭典として、健康増進、社会参加及び世代間交流の促進を図り、みんなが輝いている長寿社会づくりを目的として開催した。

①総合開会式、文化イベント

ア 開催日 9月23日(土)

イ 会場 県民福祉プラザ

ウ 内容 総合開会式及び高齢者知事顕彰状贈呈、文化イベント（アトラクション、シルバー作品展示、各種展示コーナー等）

エ 来場者数 約1,000名

②スポーツイベント（14種目）

ア 開催日 9月24日(日)

イ 会場 新青森県総合運動公園、青森市スポーツ会館、青森市スポーツ広場、青森ヤクルトスイミング、八甲田パノラマパークゴルフ等

ウ 内容 ラージボール卓球、テニス、ソフトテニス、ゲートボール、ペタンク、弓道、剣道、グラウンド・ゴルフ、なぎなた、水泳、ターゲット・バードゴルフ、バウンドテニス、ウォークラリー、パーク・ゴルフ

エ 参加人数 1,201名

④ 第8回冬季スポーツイベント

ア 開催日 カーリング：12月7日(木)、
スキー：平成30年1月27日(土)

イ 会場 カーリング：青森市スポーツ会館
スキー：大鱈温泉スキー場

ウ 内容 カーリング交流大会、アルペンスキー交流大会

エ 参加人数 カーリングは32名、スキーは27名参加

2 長寿な生活調査・発信事業

本県における長寿者（100歳以上高齢者等）及びその生活習慣・生活スタイル等を調査・収集し、広く県民に紹介・広報することにより、県民の健康意識の向上に役立てた。

(1) 委員会の設置

- ①調査内容、掲載内容等について検討・調整するための委員会の設置
- ②編集委員8名（県内シニアリーダー、関係団体等）

(2) シニアライター基礎研修

①開催日・会場・参加者数

地 区	開 催 日	会 場	参加者数
十和田	平成29年7月20日（木）	十和田市南公民館	17名
八戸	平成29年7月21日（金）	八戸市総合福祉会館	14名
青森	平成29年7月24日（月）	県民福祉プラザ	4名
五所川原	平成29年7月27日（木）	五所川原市中央公民館	10名

②内 容 通信員を選任するための基礎研修

(3) 調査実施 インタビュー、アンケート方式で実施

(4) シニアライターフォローアップ研修

①開催日・会場・参加者数

地区	開 催 日	会 場	参加者数
五所川原	平成30年2月13日（火）	五所川原市中央公民館	5名
青森	平成30年2月16日（金）	県民福祉プラザ	10名
八戸	平成30年2月20日（火）	八戸市総合福祉会館	8名
十和田	平成30年2月23日（金）	十和田市南公民館	9名

②内 容 デジカメの使い方・取材記事のまとめ方

(5) 県民への発信・広報等

- ①機関誌「あすなろ倶楽部」の発行（年4回 4,500部）
- ②ホームページへの掲載

(6) ホームページ及びブログの運営

- ①内 容 当センターの紹介、事業の紹介、機関誌の紹介等を行った。
- ② アドレス <http://www.choju-aomori.or.jp>
- ③ ブログの運営

(7) 広報活動

当センターの事業内容等について、広く県民にPRするため、パンフレット等を配布した。

①配布部数：5,000部

3 高齢者の社会活動を振興するための指導者等養成事業

(1) 青森シニアカレッジ事業（公募事業）

高齢者に体系的な学習の場を提供することによって、生きがいのある生活基盤の確立と健康の保持・増進に役立てるとともに、地域活動の担い手を養成することを目的として実施した。

① 学校企画運営委員会

ア. 開催回数 随時

イ. 委員人数 8名

② シニアカレッジ実施

ア. 開催場所 県民福祉プラザ

イ. 開催回数 18回、1日の時間割

10:00～10:30 ホームルーム

10:30～12:00、13:00～14:30の2時限

ウ. 学習分野 一般教養、健康と生活、地域と歴史文化、クラブ活動等

エ. 受講生 182名（一般教養、地域活動実践、通信教養）

③ カレッジ祭実施

受講生による自主的な活動として、実行委員会を開催し実施した。

◎平成29年10月17日（火）

④ 修学旅行の実施

ア. 行き先 和歌山県高野山

イ. 期間 平成29年11月7日（火）～11月9日（木）2泊3日

ウ. 参加者 22名（受講生20名、事務局2名）

エ. 内容 受講生の交流と世界遺産等を見学し学習意欲高める。

⑤ 通信教養コース「あおもり長寿セミナー」

ア. 放送媒体 RAB青森放送

イ. 放送回数 年間12回（毎月最終土曜日6時30分から30分間）

ウ. 放送内容 シニアカレッジ講師による健康・生きがいづくりに関わる講義

5 元気なシニア総合サポート事業（自主事業）

仲間づくり支援相談員（センター職員が兼務）を配置して適切な指導・助言を行うほか、健康づくり活動等を行うサークルの情報収集及び提供を行った。

6 介護予防事業（自主事業）

市町村から受託し、高齢者が要介護状態もしくは要支援状態となることの予防を目的として行うものである。単に運動機能や栄養状態など、個々の心身の状況等の改善のみを目指すものではなく、個々の高齢者が自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

これまでも市町村へ情報発信（介護予防事業パンフレット・介護予防の内容の機関誌・高齢者の生きがい健康づくり事業の効果等周知）し連携を図ってきたが、継続して情報交換した。また、講師派遣等を通して介護予防の必要性の普及・啓発を図った。

- (1) 受託先 五所川原市、大鰐町
- (2) 回数 五所川原市78回（五所川原・金木・市浦）
大鰐町63回（大鰐町は介護予防一次予防事業49回、二次予防事業14回）
- (3) 内容 運動機能向上、栄養改善、口腔ケア、認知症予防、閉じこもり防止、その他学習療法による脳トレ、ニュースポーツや軽スポーツ等の通所型介護予防事業。
また、一般財団法人長寿社会開発センターで全国に啓発・普及している「ふまねっと運動（歩行機能や認知症機能の改善）」を取り入れ事業を実施した。
- (4) 対象人数 五所川原市171名、大鰐町120名※募集は市町で実施した。

7 「あすなろ遊学の旅」事業（あすなろ友の会15周年記念事業）

当センターが組織化した高齢者自主活動組織「あすなろ友の会」の幹事会事業である「あすなろ遊学の旅」事業を実施した。

- (1) 事業内容 合同忘年会等
開催日：平成29年10月4日（水）～5日（木）（1泊2日）
場 所：函館市 湯の川温泉
参加者：100名
- (2) その他 あすなろ友の会は、現在約700名の会員がいる。

8 その他

- (1) 青森県消費者協会主催「青森県消費者トラブル防止ネットワーク」委員
- (2) エイジレス・ライフ実践者賞、青森県「健康づくり事業功労者等表彰」、青森県「いきいき男女共同参画社会づくり表彰」推薦
- (3) ふまねっとサポーターによるふまねっと運動教室職員派遣
- (4) 口腔保健支援センター運営委員
- (5) 生涯学習フェア2017への出展
- (6) 健康運動指導士による介護予防教室の派遣

第6 青森県発達障害者支援センター事業報告

1 概況

当センターは、平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の付置施設として開設し12年目を迎えた。平成29年度も、青森県発達障害者支援センター「ステップ」の理念『繋ぐ・集う・育つ』をモットーに、発達障害のある方が地域で安心して自分らしい生活が送れるように、地域の各関係機関をはじめ、さまざまな方々と連携・協働しながら本人とその家族を支援するとともに、関わる皆さんを応援し、地域における発達障害児者支援体制の充実を目指した。

国の発達障害支援施策や、昨今の発達障害に関する情報、最新の知見に対して常に把握するように努め、当県の課題やニーズと照合しながら、事業構成を検討し実施してきた。

発達障害者支援センター運営事業の4つの柱である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」を軸に、県内市町村の支援環境の整備を支援するとともに、「青森県発達障害者支援体制促進事業」による地域で発達障害のある方やその家族を支援するリーダーやコーディネーターとなる人材の育成と地域における支援の拠点作りに取り組んだ。

平成29年度から新たに開始した「青森県発達障害者支援体制整備事業」では、県内の医療従事者を対象に、発達障害対応力の向上を目的とした研修会を実施した。多くの医療従事者が受講され、医療機関とのネットワークを構築することにもつながった。また、県内全域を対象とした「青森県発達障害者支援フォーラム」では、約200名の受講があり、医療、保健、教育、福祉、労働、ご家族、一般等、多様な職種及び地域の方が参加し、発達障害に関する最新の知見を共有することができた。その他、県内の遠隔地を対象とした「青森県発達障害地域連携強化事業」では、下北地域（大間町、佐井村、風間浦村）、東青地域（今別町、外ヶ浜町、蓬田村）で研修会を開催し、発達障害について、地域の方々に正しく理解してもらう普及啓発を行った。併せて、機関訪問支援、個別ケース会議、個別相談会等を実施し、地域の支援者へ専門的な知見から必要なアドバイス等を実施。地域の相談支援体制の整備等、遠隔地域との連携を促進することができた。

その他、県内発達障害者支援センターの中核的な役割として、他センターとの協働、厚生労働省社会援護局障害児・発達障害者支援室や北海道東北ブロックの各発達障害者支援センターをはじめ、全国の発達障害者支援センター等との情報交換と連携に取り組む等、有機的なネットワーク構築に努めた。

県内市町村の健診事業への職員派遣、保育所・関係福祉施設・学校等への訪問支援、機関コンサルテーション、研修講師の派遣の依頼が高まり、積極的に対応した。

年3回、青森県発達障害者支援連絡協議会を開催し、各関係機関等との連携と県内各地域の課題の共有を図った。明確になった地域の課題に対して、次年度の当センターの事業に反映する等、建設的な取組を継続した。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

職名 男女別	センター長	副主任 支援員	支援員	臨時 支援員	計
男			1		1
女	1	1		1	3
計	1	1	1	1	4

3 事業の実施状況

(1) 実施状況の総括

事業内容			実 績
1 発達障害児（者）及びその家族等に対する相談支援・発達支援		実支援人員	4 6 7 人
		延支援件数	7 4 4 件
2 発達障害児（者）に対する就労支援		実支援人員	1 4 4 人
		延支援件数	2 9 1 件
3 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	a. センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	1 4 回
		延参加人数	8 6 7 人
	b. 外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	9 3 回
		延参加人数	3, 0 0 3 人
	c. 教育関係者との合同研修会	実施回数	1 0 回
		延参加人数	3 8 7 人
4 関係施設・関係機関等の連携	a. 連絡協議会開催回数	実施回数	3 回
	b. 調整会議	実施回数	4 回
	c. 機関コンサルテーション	実施件数	2 9 回
	d. 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	5 回
	e. 他の協議会への参加状況	参加回数	2 4 回
5 地域住民等に対する普及啓発	地域住民向け研修会の開催等	実施回数	5 回
6 職員の研修派遣状況		参加回数	5 0 回

第7 ライフサポートあおば

1 概況

ライフサポートあおばは、発達障害等の要因によって日常生活上の困難さを抱えている方々が安心した生活を送る上で必要な支援を提供するため、現在は青葉・千刈・松森地区にて3つの障害児通所支援事業所を運営している。実施事業は、以下のとおりである。

- (1) デイサービスセンターあおば（青森市青葉地区）
 - 児童発達支援事業…未就学児童への通所療育
 - 放課後等デイサービス事業…就学児童への通所療育（発達障がい児向け）
 - 保育所等訪問支援事業…保育所等へ出向いての支援・助言等（個別給付）
- (2) デイサービスセンターすこやか（青森市千刈地区）
 - 放課後等デイサービス事業…就学児童への通所療育（主に小学・中学生）
- (3) チャレンジサポートすこやか（青森市松森地区）
 - 放課後等デイサービス事業…就学児童への通所療育（主に中学・高校生）
- (4) 障害児等療育支援事業（青森市からの委託契約）
 - 外来相談・訪問相談・施設支援（幼稚園・保育園・学校・福祉施設等）
- (5) すこやか生活塾（青森市青葉地区）
 - 法人自主事業…発達障がい児向けの個別セッション

2 職員の状況

（平成30年3月31日現在）

事業名	定員	センター長	総務	責任者	職員	計
デイサービスセンターあおば	10名	1	1	2	3(1)	6
すこやか生活塾	—			—	(1)	
デイサービスセンターすこやか	10名			1	4	5
障害児等療育支援事業	—			(1)	1	
チャレンジサポートすこやか	10名			1	5	6
合計	30名	1	1	4	12	18

- 1) センター長がデイサービスセンターあおば・デイサービスセンターすこやか・チャレンジサポートすこやか管理者及び障害児等療育支援事業職員を兼務。障害児等療育支援事業職員として計上。
 - 2) 総務はデイサービスセンターあおばとして計上。
 - 3) デイサービスセンターあおばの責任者のうち、1名は職員(心理療法担当)を兼務。
 - 4) チャレンジサポートすこやか職員4名中、1名は非常勤。
- () 付けの数字は兼務とし、実数を本務として計上した。(合計に兼務者はカウントせず。)

3 重点事項

(1) 個々の特性に配慮した個別化した支援の充実

モニタリング会議・ケースカンファレンス等において、個々の特性を確認し、周知・確認を行った。

(2) 発達障がいへの理解と支援の普及啓発

平成29年度は法人内や大学における研究発表、強度行動障害支援者養成研修における事例報告、他法人や大学生等向けの講義機会を活かすなどして発達障がいの理解や支援の普及に努めた。

(3) 当法人内外の機関との協働体制と人材育成の推進

法人内実地研修への職員派遣（19名中11名参加）、他事業所への移行支援や引継ぎ（7ケース）、各種研修会ワーキング会議参加、各種ケースカンファレンス参加など、他機関と協働する機会を用いて人材育成にあたった。

(4) 顧客満足・職員満足・経営満足の維持向上による安定した経営基盤の構築

利用満足度調査、放課後等デイサービスガイドライン、福祉サービスの質の評価（自己評価）結果、拠点における収支について情報提供を行い、改善への取り組みを検討した。面談シートを用いた職員面談を実施した。

(5) 3拠点事業所の情報共有と連携体制の強化

3事業所間での実地研修（19名中9名参加）を実施し、運営会議では各事業所の近況報告を行った。また、3事業所間の情報共有ルールを設けるなどの情報共有を行い、必要に応じて相互の業務応援を行った。

4 職員研修

(1) 人材育成計画

当計画は、法人内「職員面談実施要領」における「面談シート」を用いて、職員に求めるものを伝え、研修計画へ反映させた。

(2) 技術・資格の取得

サービス提供に必要な技術研修、サービス管理責任者研修等への派遣を行った。

(3) 事業所内研修

全体会議及び各支援会議において実施した。

(4) 外部研修会への参加・発表等

研究発表会への参加や研修内の事例報告を行った。

(5) 虐待・リスクマネジメント関連の研修参加・実施

外部及び法人内研修へ派遣し、内部への伝達研修を行った。

5 避難訓練

事業所毎に最低2回実施した。（毎月実施の事業所もあった。）

I 児童デイサービスあおば

1 概況

デイサービスセンターあおばでは、未就学児を対象とした児童発達支援事業と、学齢期の発達障がい児（主に知的障がいを伴わない方）を対象とした放課後等デイサービス事業を実施し、平成25年度から保育所等訪問支援事業を実施した。

契約者の内訳は（平成30年3月現在）、総契約者24名中、未就学児が8名（33.3%）、小学生が12名（50.0%）、中学生が3名（12.5%）、高校生が1名（4.1%）であった。（尚、未就学児は週5回の契約、小学生以上は週1回程度の契約。）

療育及び発達の支援を必要とする児童（主に発達障がい児）を対象に、本人と家族の希望により本人の特性と発達段階に沿った個別支援計画を作成し、日常生活において自立的に行動できる力を身につけるための支援を行った。個別支援計画の作成や実施に関連した保護者との面談も実施し、家庭との連携強化に努めた。

児童発達支援事業では、個別活動・集団活動を通して早期療育の指導を行った。集団活動では、制作活動、おやつ作り、音楽活動、ゲーム活動、外出活動のほか、季節ごとの行事活動として、外食、プール活動、雪遊び、園芸を取り入れた。

放課後等デイサービスでは、1対1の個別セッションでコミュニケーション・感情のコントロール・ソーシャルスキルの習得・自己認知等の内容で支援を行った。全員ではないが、児童2～3人でのグループセッションも実施した。

児童発達支援・放課後等デイサービスのいずれも、他療育機関及び関係機関への訪問・移行支援会議等への参加を通して、連携の強化に努めた。

保育所等訪問支援事業では、お子さんが保育園・幼稚園及び小学校等の集団生活に適應することができるように訪問支援を行い、お子さんに関する共通理解をもとに協働・連携を行った。

その他、利用希望等の問い合わせが24件、うち見学者が7件、その他の見学者が26件、実習生2名、ボランティア1名の受け入れをした。

2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
児童発達支援契約者数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
営業日数	19	20	22	19	20	20	21	20	19	18	19	19	236
延べ利用人数	124	135	171	141	152	157	163	144	135	135	143	136	1,736
放課後等デイサービス契約者数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
営業日数	19	20	22	11	20	20	21	12	18	19	19	12	213
延べ利用人数	40	38	46	26	42	37	39	29	36	37	36	23	429
保育所等訪問支援契約者数	19	19	19	19	17	17	17	17	17	16	16	16	
延べ利用人数	6	3	1	1	0	2	0	0	0	2	1	0	16
延べ利用人数合計	170	176	218	168	194	196	202	173	171	174	180	159	2,181

Ⅱ 児童デイサービス事業すこやか

1 概況

デイサービスセンターすこやかでは、青森市内に住む知的障がい、発達障がいを有する小・中学生に対し、生活に必要なスキルを習得するための支援を実践した。また、本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談の他に、家庭・学校・関係機関との連携を行った。

契約者の内訳は（平成30年3月現在）、総契約者31名中、小学生が21名（67.7%）、中学生が10名（32.3%）、青森第二養護学校在籍児が22名（71.0%）、その他・特別支援学級在籍児が9名（29.0%）であった。

平成29年度は、10名の児童保護者、関係機関から新規利用希望の相談を受け、見学の対応などを行った。

リスクマネジメントに関しては、職員を研修に参加させるとともに、毎月の会議で、実際のインシデント・アクシデントの報告書を基に検討する機会を設けた。

平成28年度同様、チャレンジサポートすこやかとの交流研修の機会等を通じた連携強化を図った。また、職場内においては、毎月の職場内研修、職員の自己啓発（SD）を中心とした職員研修の他、実地研修や研修会への参加も行った。

実習生の受入は1名、ボランティアの受入は高校生、短大生、大学生を合わせて5名、見学受入は40名、講師・講演活動・学習会等へのインストラクター派遣を延べ18回実施・参加し、支援技術やサービス内容の普及啓発に努めた。

地域との関わりとして、週1回（雨天中止）、事業所周辺のゴミ拾い等を実施した。

2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	30	30	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	
営業日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	21	244
登校日利用	145	209	252	155	78	214	222	201	177	122	186	164	2,125
学休日利用	69	10	1	63	150	12	11	10	41	67	10	67	511
延べ利用人数	214	219	253	218	228	226	233	211	218	189	196	231	2,636

Ⅲ チャレンジサポートすこやか

1 概況

チャレンジサポートすこやかでは、青森市内に住む知的障がい、発達障がいを有する中学・高校生に対し、成人期に向けた作業・活動・余暇種目（3種目）を習得するための支援を実践した。

年度末には高卒児の移行支援会議を実施した（3ケース）。

契約者の内訳は（平成30年3月現在）、総契約者27名中、中学生が12名（44%）、高校生が15名（56%）、青森第二養護学校在籍児が26名（96.3%）、

青森第一高等養護学校在籍児が1名（3.7%）であった。

本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談の他に、家庭・学校との連携を行った。

実習生の受入は1団体1名、ボランティア受入は実人数5名、延べ24名、見学受入は35名実施し、サービス内容の普及啓発に努めた。

職場内におけるケースカンファレンスやスーパービジョン体制の活用、職員の自己啓発（SD）を中心とした職員研修のほか、他事業所の見学・実地研修や研修会への参加も行った。

2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	
営業日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	21	244
登校日利用	149	217	237	155	82	194	218	192	183	136	192	139	2,094
学休日利用	68	10	0	64	135	8	10	9	42	62	6	74	488
延べ利用人数	217	227	237	219	217	202	228	201	225	198	198	213	2,582

IV 生活塾事業（セッション部分）

1 概況

法人自主事業として、平成22年度から福祉サービスの利用が困難な高機能群の発達障がい児に対しての個別指導を行っている。

しかし、平成24年度の児童福祉法改正に伴い、当事業の対象者でも福祉サービス利用が可能となったことや、当事業を利用したいニーズがあっても、他業務のニーズの高まりにより当事業への対応が困難となったため、平成29年度は休止した。

平成30年度は八甲学園との協働により事業を再開する予定である。

V 障害児等療育支援事業

1 概況

当法人にて青森市より「障害児等療育支援事業」の委託契約を受け、ライフサポートあおばにて担当している。平成29年度は青森市経由での放課後児童会からの依頼や直接保育園等からの問い合わせもあり、特に療育技術の指導件数が増えた。

2 利用状況

障害児等療育支援事業	延べ実績
(1) 訪問による療育指導	62件
(2) 外来による専門的な療育相談・指導	30件
(3) 療育技術の指導	110件

3 内訳

(1) ケース数 () 内は延べ人数。

102名 (251件)

(2) 年齢別分布 () 内は延べ人数。

幼児 61名 (128件)

小学生 34名 (109件)

中学生 4名 (11件)

高校生 0名 (0件)

成人 3名 (3件)

第8 就労サポートセンターさつき

1 概況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援A型及びB型事業を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や一般就労に必要なスキル習得への支援を行い利用者の確保に努力した。

生産活動は、農産班、清掃班、リサイクル班、給食班の4班体制で実施した。

農産班の水稲事業では、「まっしぐら」を主に栽培し、収穫量は22,200kg(約370俵)と昨年比で6割程度に留まった。天候不良に加え人手不足による水田管理が不十分となったことが要因である。

また、清掃班は、法人内障害者支援施設の清掃業務を受託し実施していたが、年度途中で利用者の就職等により作業人員が不足となり、業務の継続が困難となったため、以降年度末までの期間、就労サポートセンターはくちょうとの共同作業で取り組んだ。この二班の状況が大きな課題となった。

地域貢献等については、近隣住民との積極的な交流活動をはじめ、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れ地域と一体となり事業を展開した。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

(人)

所長	副主任 支援員	支援員	臨時 支援員	臨時 事務員	非常勤 調理員	非常勤 運転員	合計
1	1	1	5	1	2	1	12

3 利用者の状況

(平成30年3月31日現在)

(人)

区分	就労移行 支援事業	就労継続支援 B型事業	就労継続支援 A型事業	合計
定員	6	15	10	31
平成29年度 当初利用者数	6 (男5・女1)	15 (男13・女2)	5 (男5・女0)	26 (男23・女3)
平成29年度内 の利用開始者数	2 (男1・女1)	1 (男0・女1)	1 (男1・女0)	4 (男2・女2)
平成29年度内 の利用終了者数	1 (男1・女0)	0 (男0・女0)	1 (男1・女0)	2 (男2・女0)
平成29年度末 現在の利用者数	7 (男5・女2)	16 (男12・女4)	5 (男5・女0)	28 (男22・女6)

平均年齢(平成29年度末) = 全体: 38歳(男性: 38歳・女性: 30歳)

4 運営方針

就労支援に特化した事業所として、就労継続支援 A 型事業、B 型事業及び就労移行支援事業を実施することで、利用者が地域において自立した生活を送るための支援を行うとともに、一般就労へ向けた知識と技術を向上させるサービスを提供する。併せて、地域の産業の発展に貢献するような生産活動の展開と地域交流を促進する。

数ある事業所の中から利用希望者に選ばれる事業所となるために、「スポーツをとおして就労に適した体作りができる事業所」をスローガンとして、特別支援学校におけるスポーツ活動によって培った身体能力を最大限に活かし、障害者スポーツ大会やスペシャルオリンピック、各市町村が主催するマラソン大会等への参加など、スポーツシーンでの「活躍の場」を提供することで利用者の社会参加を推進する。

5 重点事項

- (1) 生産活動の内容充実
- (2) スポーツ活動の推進
- (3) 利用者獲得のための活動促進
- (4) 放課後子ども教室推進事業の特色化
- (5) 利用者工賃の向上
- (6) 地域清掃ボランティア及び除雪ボランティアの実施
- (7) 学校教育への協力

6 事業の実施状況

(1) 事業概要

①就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、職場実習や一定期間の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。また、就職決定者に対しての定着支援は、ジョブコーチと連携しながら継続した。

期 間	人数	実習場所
2月13日～2月16日（5日間）	2	平内町立山村開発センター

②就労継続支援 A 型事業

一般企業等での就労が困難な方に、雇用して就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

③就労継続支援 B 型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況 (円)

班名	平成29年度(A)	平成28年度(B)	前年比(A-B)
農産班	9,203,491	7,573,692	1,629,799
清掃班	2,353,300	3,896,400	△1,543,100
請負班	農産班へ統合	5,890,549	△5,890,549
リサイクル班	6,947,880	5,840,996	1,106,884
給食班	2,642,800	3,640,800	△998,000
計	21,147,471	26,842,437	△5,694,966

(3) 工賃及び賃金の支給状況

区分	就労移行支援事業		就労継続支援事業B型		就労継続支援事業A型	
	延べ人数 (人)	支給金額 (円)	延べ人数 (人)	支給金額 (円)	延べ人数 (人)	支給金額 (円)
年間合計	1,435	1,114,410	3,478	2,825,737	1,200	4,854,897
1人当たり 月平均額		14,287		17,902		75,857
賃金支給 対象者数		78		157.8		64

(4) 就職に向けた取組

職場実習等を通じて、一般就労に向けて積極的に取組んだ結果、1名が一般企業に採用されたほか、1名が内定した。採用後は、関係機関と連携し就労定着に関わった。

(5) 余暇支援等(行事関係)

	レクリエーション(土日開所)	地域交流活動等
4月	◎夏泊半島ツアー(15日) ◎夏泊清掃・保護者会(22日)	◎塩釜神社春祭り(17日) ◎だいすき海岸運営協議会(19日)
5月	◎平内クロスカントリー大会(3日) ◎夢の森散策(20日) ◎走れメロスマラソン(28日)	◎だいすき海岸清掃奉仕(1日)
6月		◎だいすき海岸清掃奉仕(1日)
7月	◎地引網体験(8日) ◎BBQ体験(15日) ◎浅虫水族館見学(22日)	◎だいすき海岸清掃奉仕(1日) ◎夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放(23日)
8月	◎わくわく動物園見学(5日) ◎大運動会(19日) ◎県障害者スポーツ大会(27日)	◎だいすき海岸清掃奉仕(1日) ◎だいすき海岸夜間巡視(1日)
9月	◎AWボウリング大会(3日) ◎球技大会(16日)	◎だいすき海岸清掃奉仕(1日)
10月	◎夢の森収穫祭参加(7日) ◎ほっと音楽祭(21日)	◎だいすき海岸清掃奉仕(1日) ◎塩竈神社秋祭り(17日)

11月	◎メイプルマラソン大会（4日） ◎大収穫祭（11日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
12月	◎育成会クリスマス会（10日） ◎利用者忘年会（16日） ◎年末大掃除（23日）	◎地域住民との意見交換会（8日）
1月	◎花餅づくり（6日） ◎AWボウリング大会（13日） ◎調理実習・焼きそば編（20日） ◎卓球大会（27日）	◎茂浦青年団権現舞訪問（18日） ◎茂浦町内会総会（16日）
2月	◎サボテン園・洋ラン園見学（10日）	
3月	◎ボウリング大会（10日） ◎歓送迎会（24日）	

(6) 食事（昼食）提供

昼食を希望する方に対して、当事業所職員が調理する食事を提供した。また、摂取カロリーを制限した特別食を希望者に提供した。

なお、献立作成にあたり、毎月開催する給食会議における利用者からの要望や、なつどまり管理栄養士の指導助言を反映させた。

(7) 送迎体制

コース名	行き先
平内町（野辺地）	小湊、清水川、野辺地
平内町（小豆沢）	小豆沢、障害者総合福祉センターなつどまり
青森市内（山通り）	観光通り、筒井、戸山
青森市内（浜通り）	青森駅、浪打、八重田

(8) 実習生の受入

受入期間	人数	学校名
6月26日～7月7日（10日間）	1	青森県立青森第二養護学校
10月2日～10月6日（5日間）	1	青森県立青森第一高等養護学校
10月2日～10月13日（10日間）	2	青森県立青森第一高等養護学校
10月2日（1日）	1	多機能型事業所はっこう
11月6日～11月17日（10日間）	1	青森県立七戸養護学校
11月6日～11月17日（10日間）	1	青森県立青森第二養護学校
12月11日～12月15日（5日間）	1	相談支援事業所あおば

(9) ボランティア・アルバイトの受入

内容	ボランティア等	人数	備考
調理業務	中央短期大学生	3名	アルバイト
放課後子ども教室サポーター	中央学院大学留学生	3名	有償ボランティア
生産活動（ピン刺し）	地域住民	4名	無償ボランティア

(10) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員（4名）と面談する機会を設けたほか、随時相談を受ける体制を整備した。なお、実施については虐待防止対応規程と連動し対応した。

(件)

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(11) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行した。

また、感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

(12) 安全管理・防災対策

年2回（7月25日、2月20日）避難及び消火訓練を実施したほか、昨年度に引き続き、事業所敷地内、リサイクル作業場及び水稲耕作地においてクマ避け対策を施行、利用者の安全確保に努めた。

また、Jアラート等非常時の対応、虐待防止研修を実施し、予防対策に努めた。

(13) 地域貢献・地域交流

①平内町主催の「ほたて海道トンネルマラソン」開催にあたり、開会式会場及び休憩所として施設を開放した。

②平内町主催の「県道夏泊公園線清掃奉仕作業」に利用者及び職員が参加した。

③当事業所行事「大運動会」及び「大収穫祭」に、特別支援学校生徒及び保護者を招待し事業所の理解を図るとともに、地域住民の参加を呼びかけ交流を図った。

(14) 所内会議等

会議名	回数
就労・生産支援会議	毎月1回
給食会議	毎月1回
事業所会議	毎月1回

(15) 職員研修関係

事業所内での勉強会や法人内他部署での実地研修をはじめ、県内外で実施する各種研修等に職員を派遣した。

また、支援技術や生産技術の向上を図るための専門的な研修にも積極的に派遣した。

(16) 広報関係

- ① パンフレット・事業概要作成配布
- ② 広報紙「でんでん」年3回発行配布
- ③ ホームページ開設
- ④ A T V番組における事業所紹介 2回放送
- ⑤ 物販活動（米：お米キャラクター「茂米しげべい」）

イベント名	会場	開催日
2017年度地域活性化を担う企業展	ねぶたの家ワ・ラッセ	平成29年 9月 9日（土）
原別地域収穫祭	青森東部市民センター	平成29年10月29日（日）
農福連携マルシェ2017	マエダガーラモール	平成29年11月4日（土）～5日（日）
アピオあおもり秋祭り	アピオあおもり	平成29年11月11日（土）

⑥ 見学者の積極的な受入

就活者、養護学校教諭・生徒、民生委員児童委員

(17) 寄付

寄付元	内容
ホンダ販売労働組合	F Fストーブ 1台

(18) 放課後子ども教室（平内町からの受託事業）の運営状況

- ①営業日 毎週月～金曜日
- ②営業時間 15:00～18:00
（但し、小学校長期休業期間は9:00～17:00）
- ③利用契約者 40名
- ④サポーター 6名

【本年度の実績】

※上段：当年度 下段：前年度

区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
稼働日数 (A)	19	20	21	20	21	19	21	20	20	19	18	21	239
	19	19	21	20	22	19	20	21	18	19	20	21	239
延利用者数 (B)	261	241	245	278	308	189	204	228	217	222	171	233	2,797
	255	202	255	303	273	181	211	201	189	184	123	222	2,599
1日当たりの 平均利用者数 (B÷A)	14	12	12	14	15	10	10	11	11	12	10	11	12
	13	11	12	15	12	10	11	10	11	10	6	11	11

第10 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

平成29年度は、基本理念の実現に向けて、基本方針を「利用者一人ひとりの尊厳を尊重します。」「家族とのきずなを大切にします。」「地域とのつながりを大切にし、地域の高齢者福祉の拠点を目指します。」の3つに整理し、以下の重点事項6項目を掲げて、施設運営の基盤整備を行った。

(1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実（24時間シートの活用）

ユニットケア推進委員会を定期開催し、全入居者（短期入所利用者除く）の24時間シートを完成させ、個別支援の充実に活用した。また、ユニットケアに関する研修会を年2回開催し、職員のユニットケア理念の浸透を図った。

(2) 利用者の人権・尊厳擁護の強化

昨年度の青森市の指導を受け、苑内での虐待防止研修を年3回開催し、全職員が受講することで、啓発と意識向上を図った。また、リスクマネジメント委員会の中で、身体拘束廃止の取り組みを行い、人権と尊厳擁護の強化に努めた。

(3) 生きがい活動支援の強化

ニーズアンケートに多かった外出する機会を増やすため、ねぶた団地見学を実施した。また、近隣大学の附属幼稚園児との交流を年2回企画したところ、園児から笑顔と元気をいただき、地域とのつながりを作るうえでも良い機会となった。余暇活動を活性化させるため、星取りクラブを開催し、賞状や記念品を準備することで毎回楽しみに参加し、盛況をみせていた。

(4) 家族や地域との関わり強化

面会に来られるご家族、運営推進委員や苦情解決協議会委員（第三者委員）、定期的に来苑される地域の方々、近隣大学の先生、芸能を披露するボランティアグループなど少しずつボランティア参加者が増加した。また、新たな取り組みとして、シニアカレッジ受講者の体験ボランティアの受け入れを行った。施設内で開催する研修会を開放し、ご家族や地域の方も受講できるようにした。

(5) 看取りケア実施に向けた体制整備

看取りケア準備委員会を定期開催して、課題整理をすすめたほか、青森県立中央病院緩和ケア協力による研修会開催等を行い、看取りに対する職員の知識・心構え等を整える機会を設けることができた。

(6) 実習生受入れ体制整備

実習指導者講習会への職員の受講をすすめ、次年度より受入開始となる介護福祉士養成における実習準備を行った。また、県立保健大学1年生の体験実習のほか、教職員養成課程、福祉人材センターによる就職希望者、介護職員実務者研修受講者の体験実習などを実施した。実習生の中から、当法人への就職者も出た。

その他、外部研修に参加した職員からの伝達研修が実施できていなかったため、

年2回実施した。良き発表の場となり、かつ、発表した職員にとっても良い振り返りとなった。また、開設当初作成した各種マニュアルを見直す機会も持てなかったため、見直す機会としてマニュアル研修会を開催し、各種マニュアルを改正した。

一方、人材不足と人材確保の難しさは、当苑も例外ではなく、4月当初配置人員を満たしていたものの、介護職員の欠員補充ができないまま年度を終えることになった。他職種の協働により、サービス提供を維持できたものの、業務が過密になり、適宜進行できない部分もみられた。防災面では、水害を想定した避難訓練等は実施できたものの、防災委員会を定期開催できなかったため、自然災害を含めたマニュアルを整備できなかった。

今後は事務局と連携して、多様な求人活動による人材確保をすすめ、安全で安心できる施設作りを推進する必要がある。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

職名	施設長	医師	生活相談員	看護職員	介護職員	介護支援専門員
人数	1	1	1	3	19 【21】※ 1	1
職名	栄養士	機能訓練指導員	事務員	専任当直員		計
人数	1	1	1	3		32

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。

※1・・・管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【21】に含む。

3 入退所状況

入所		短期入所・介護予防短期入所	
定員	29人	定員	10人
平成29年度内延入所者数	40人	平成29年度内延利用者数	54人
平成29年度内退所者数	11人	平成29年度内延利用件数	567件
平成29年度末現在の入所者数	27人		

4 運営方針

施設の基本理念と基本方針の実現に向けて、サービスの提供にあたっては、利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者がその能力に応じ、自律した日常生活を営むことができるように支援する。

また、地域や家庭との結びつきを重視し、青森市、居宅介護支援事業者及び他の居宅サービス事業者、その他の保健医療及び福祉サービスを提供する者との密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

さらに、介護予防短期入所生活介護における要支援者に対しては、要介護状態への移行軽減や未然防止のために介護予防を目的として日常生活上の支援を行う。加えて、隣接する「養護老人ホーム安生園」が有する機能を活用し、災害時等の協力体制を整備するなどの連携を図り、利用者の安全確保に努める。

【基本理念】

家庭に近い環境の中で利用者一人ひとりの尊厳が守られ、心穏やかに自分らしく生活できるよう支援します。

【基本方針】

- 1 利用者一人ひとりの尊厳を尊重します。
- 2 家族とのきずなを大切にします。
- 3 地域とのつながりを大切に、地域の高齢者福祉の拠点を目指します。

5 重点事項

- (1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実（24時間シートの活用）
- (2) 利用者の人権・尊厳擁護の強化
- (3) 生きがい活動支援の強化
- (4) 家族や地域との関わり強化
- (5) 看取りケア実施に向けた体制整備
- (6) 実習生受入れ体制整備

6 事業概要

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 定員

29名 10名×2ユニット、9名×1ユニット

(2) 概要

利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、常に介護が必要な方を受け入れ、入浴や食事などの日常生活上の支援や、機能訓練、療養上の世話などを提供した。明るく家庭的な雰囲気を作り、地域や家族との結びつきを重視した運営を行った。利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の生活と入居後の生活が連続したものと

なるよう配慮し、各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるよう支援した。

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 定員

10名 10名×1ユニット

※上記他、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

(2) 概要

居宅の要介護者等に一時的に施設利用していただき、居宅での暮らしに近い日常生活を行う観点から、利用者の自律的生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中での生活できるスペースを備えたユニットケアを行い、高齢者の自律支援という視点に立って、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的、精神的負担の軽減を図った。

7 事業の実施状況

(1) 年間行事

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
花見ドライブ	4 / 27	12人	桜川まで桜見学を兼ねてドライブ
明の星幼稚園 レクリエーション	5 / 17	28人	幼稚園児による歌等の披露、入居者との触れ合い
芸能公演会	6 / 14 10 / 11	22人 29人	ボランティアサークル「希望の会」によるマジック・踊り・歌謡曲等を披露
ねぶた団地見学	7 / 24 ～26	23人	ねぶた団地（アスパム）へ行き、作成中のねぶたを見学
ねぶた祭り観覧	8 / 2	4人	青森市より招待されたねぶた祭り観覧へ参加
敬老会	9 / 20	35人	明の星幼稚園園児の訪問。合唱とお遊戯披露。施設より入居者に記念品贈呈
おがでん歌の出前	11 / 29	29人	おがでん氏による歌、漫談の披露
新年会	1 / 17	26人	音楽体操やカルタ大会、合唱などのレクリエーション

家族連絡会	3 / 10	10家族	運営状況・アンケート結果報告、平成30年度運営推進委員・苦情解決協議会委員（家族代表）の選出、意見交換等
ユニット内行事：母の日会、父の日会、七夕会、紅葉ドライブ、クリスマス会 節分会、ひな祭り等を各ユニットで開催。ほか、年2回大掃除実施			

(2) クラブ活動

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
音楽体操クラブ	3ヵ月に 1回程度	各回 約20人	4/27、8/2、12/20、3/14
書道クラブ	月1回程度	各回 約15人	4/19、5/31、6/28、7/19、8/30 9/13、10/25、11/15、12/27 ※冬期間感染症対策にて休止
星取りクラブ	年6場所	各回 約10人	5/14～28、7/9～23、9/10～24 11/12～26、1/14～28、3/11～25

(3) 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状態 の観察等
体重測定	毎月	全利用者	
配置医診察	週1回 木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査 や通院等の指示等
通院・往診	随時	通院が 必要な 利用者	(通院) 泌尿器科 41人・内科 36人 整形外科 13人・救命救急 12人 循環器内科 8人・精神科 6人 皮膚科 4人・眼科 2人 耳鼻科 2人・歯科 2人 総合診療科 1人・リウマチ科 1 人・認知症外来 1人 (往診) 歯科 45人・認知症外来 28人 ※延人数、短期入所利用者除く

口腔機能維持管理指導	月 1 回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言 指導
機能訓練	週 2 回程度	全利用者	機能訓練計画書による機能訓練 ※短期入所利用者除く
訪問理美容	第一・第三 水曜日ほか	162人 ※延人数	4月11人、5月9人、6月15 人 7月13人、8月12人 9月15人、10月13人 11月19人、12月16人 1月10人、2月11人 3月18人

(4) ボランティアの受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
音楽体操クラブ補助	4 回	計 12 人	家族、地域住民
書道クラブ補助	9 回	計 34 人	地域住民 青森県立保健大学助教授
花見ドライブ付添	4 / 27	2 人	家族
幼稚園訪問補助	5 / 17	1 人	地域住民
芸能公演会補助	6 / 14 10 / 11	計 10 人	家族、地域住民
ねぶた団地見学付添	7 / 24 ~ 26	計 2 人	家族、運営推進委員
安生園夏祭り訪問付添	7 / 26	1 人	家族
ねぶた観覧付添	8 / 2	2 人	家族
敬老会補助	9 / 20	4 人	家族、運営推進委員
おがでん歌の出前補助	11 / 29	3 人	家族、地域住民
新年会補助	1 / 17	5 人	家族、地域住民
上記ほかユニット内行事補助、洗濯畳みや古布の裁断（清拭布作り）、アロママッサ			

ージ、タクティールケアなど参加あり

(5) 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（昼間火災想定）	6 / 7	44人	職員21人、利用者23人 家族・第三者委員 計7人視察
防災訓練（夜間火災想定）	10 / 14	64人	職員22人、利用者32人 地域防災協力隊10人
防災訓練（水害想定）	2 / 28	29人	職員22人、利用者7人

(6) 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
救急処置（AED）研修	4 / 26 10 / 14	計24人	心配蘇生方法やAEDの使用 方法など実技を通じた訓練、 気道閉鎖（窒息）時の対応など
ユニットケア研修	4 / 26 10 / 25	計22人	ユニットケアの理念、24時間 シートの活用について
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	5 / 17 11 / 15 3 / 30	計32人	高齢者虐待の定義、身体拘束 廃止に向けて、事例検討など
事故防止に係る研修	7 / 5 1 / 31	計17人	事故予防や再発防止について
排泄介助（オムツ）研修	5 / 30	7人	業者の営業担当より、排泄概 論、オムツの当て方について指 導
伝達研修	6 / 14 12 / 27	計26人	外部受講研修の伝達（栄養・認 知症・介護技術研修ほか）
感染症対策研修	6 / 28 12 / 25	20人	食中毒や感染症予防策について 嘔吐時処理手順の確認
口腔ケアに関する研修	8 / 9 2 / 28	26人	外部講師（歯科衛生士）より、 高齢者の口腔ケアについて指 導
マニュアル研修	8 / 30 2 / 7	18人	各種マニュアルの見直しと内容 確認
看取りに関する研修	9 / 27 3 / 14	26人	看取りに対する心構え、看取り の実際、リビングウィルについ て。※3月は県病医師の講義

平成29年度安生園・すこやか苑合同研究発表会	12/13	9人	安生園2件・すこやか苑1件の研究発表会を実施
------------------------	-------	----	------------------------

(7) 会議・各種委員会等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
全体会議	4/19、5/24、6/21、7/19 8/23、9/20、10/18、 11/21、12/20、1/24、 2/21、3/14、3/28	各回 約15人	施設長からの指示 事項ほか、協議伝達 など
ユニットリーダー会議	4/14、5/12、6/2、7/7、 8/4、9/8、10/6、11/10、 12/1、1/5、2/9、3/2	各回7人	ユニットリーダー を中心にユニット 運営について協議
ユニット会議	毎月1回 ※各ユニット事に開催	各回5人	各ユニット内の運 営やケアについて 協議
給食会議	4/21、5/23、6/20、7/20 8/21、9/21、10/20、 11/21、12/19、1/22、 2/16、3/23	各回7人	嗜好に合わせた献 立、味付け、調理方 法（食形態）の検討
サービス担当者会議	入所 66回 短期入所 65回	各回 約7人	施設サービス計画や 短期入所生活介護計 画書作成など介護方 針の協議決定
運営推進会議	5/15、7/18、9/11、11/13 1/16、3/12	各回7人	施設運営の現状報 告、課題等へ対する 助言等
苦情解決協議会	6/2、9/11、12/25、3/5	各回7人	各種苦情解決へ向 けての協議
苦情解決第三者委員 相談日	4/4、5/26、6/22、7/14 8/25、9/29、10/27 11/22、12/22、1/19、 2/26、3/13	延12人	第三者委員が輪番 制で訪問し、苦情要 望の聞き取り
リスクマネジメント委員 会	4/12、5/10、6/7、7/12 8/16、9/13、10/11、11/8 12/13、1/10、2/14、3/7	各回 約10人	月ごとの事故分 析・対策検討、虐待 防止、身体拘束廃止 へ向けた検討

褥瘡対策委員会	4/25、5/26、6/23、7/25 8/25、9/29、10/27、 11/24、12/22、1/26、 2/23、3/23	各回 5 人	褥瘡予防改善に向けた検討
感染症対策委員会	5/19、8/23、11/1、2/1 2/9、2/26	各回 約 10 人	食中毒・インフルエンザなど感染症対策について協議
ユニットケア推進委員会	5/10、7/5、12/6、2/14	各回 約 5 人	24 時間シートの活用などユニットケア推進を協議
看取りケア準備委員会	5/24、6/21、7/12、8/9 9/27、1/24、3/28	各回 約 8 人	看取りケアを開始するための手順等を協議、推進
広報委員会	5/16、9/5、2/13	各回 約 5 人	広報発行に係る編集など
防災委員会	4/5	8 人	防災マニュアルの整備や防災訓練の企画運営など
入所判定委員会	5/2、5/25、6/9、7/4、 8/18、10/6、1/18、1/25、 2/13	各回 約 8 人	入所候補者決定に係る協議など

(8) 実習の受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
平成 29 年度 社会福祉基礎実習 I	7 / 3 7 / 5	計 8 人	青森県立保健大学 1 年生の体験実習。施設見学と入居者とのレクリエーション
義務教育教員免許志願者に対する介護等体験	6 / 12 ~ 16 8 / 21 ~ 25 9 / 4 ~ 8	計 6 人	義務教育免許を取得予定の大学生による体験実習。介護現場の見学や入居者との触れ合い
平成 29 年度「介護労働講習（実務者研修含む）」 介護現場実習	10 / 18 ~ 20	3 人	介護職員実務者研修受講者へ介護現場の体験や入居者との触れ合い、介護過程の体験
福祉施設職場体験事業	7 / 18 ~ 21	1 人	人材の参入のため、福祉・介護の職場を体験する機会を提供。介護現場の体験、入居者との触

			れ合い
青森シニアカレッジ 体験実習	計5回	計 約50人	長寿社会振興センター主催の講座の一環として福祉施設での対人援助、環境整備などの体験

第10 就労サポートセンターはくちょう

1 概況

平内町茂浦地区において運営する就労サポートセンターさつきでは、就労継続支援B型事業の利用希望者が非常に多く、このままでは平成29年度当初に定員を大幅に上回る見込みとなった。そのため、平成29年4月に町内の浅所地区に新たに就労継続支援B型事業所を開設することとした。

事業所の名称は、白鳥飛来地として有名な場所に設置することから「就労サポートセンターはくちょう」と命名し、設置場所は平内町の協力により旧浅所小学校校舎を活用した。

開設時の利用者全員が就労サポートセンターさつきからの移籍ということもあり、事業所の理念、基本方針を始め、事業の実施にあたっては同事業所に倣い運営したところ、利用者は環境の変化により体調を崩すことなく移行できた。

開設初年度は事業所の基盤整備に努め、事業所の認知度向上及び利用者獲得など6つの重点事項を掲げ、全職員一丸となって取り組んだ。

契約者数は、新規利用者2名を獲得したことで18名となった。また、年間利用

率は契約者数ベースで87%となり、経営の安定化に向けた取組みとしては順調に推移している。

2 職員の状況

(平成30年3月31日現在)

区分	所長	副主任支援員	臨時支援員	臨時事務員	非常勤調理員	合計
男	1	1	1			3
女			1	1	2	4
計	1	1	2	1	2	7

3 利用者の状況

(平成30年3月31日現在)

区分	就労継続支援B型事業	備考
定員	20名	
平成29年度当初の利用者数	17名 (男14、女3)	
利用開始者数	2名 (男1、女1)	※2名とも平内町内の在宅者
利用終了者数	1名 (男1、女0)	※就労サポートセンターさつき(A型事業)に移行
平成29年度末の利用者数	18名 (男14、女4)	

平均年齢(平成29年度末) = 全体: 41.7歳(男性: 43.4歳、女性: 35.8歳)

4 運営方針

当事業所の利用者は、全員が就労サポートセンターさつきからの移籍となるため、通所先が変更になることで精神的に不安定にならないよう、通り慣れた就労サポートセンターさつきと同様の内容で運営した。その結果、大きな混乱もなく円滑な移籍が行われた。

事業の運営にあたっては、就労サポートセンターさつき同様に、「就労に特化した事業所」「スポーツ活動を通じた体づくりの推進」「地域産業への貢献」「地域交流の促進」をキーワードに、早期に地域にとって必要な存在となる事業所を目指す。

経営面においては、利用者の獲得に向け就労サポートセンターさつきと連携し、平成30年度末までには経営の安定化に努める。

5 重点事項

- (1) 事業所の認知度向上及び利用者獲得
- (2) 利用者工賃の向上
- (3) 地域との関係強化
- (4) 学校教育への協力

- (5) スポーツ活動等の推進
- (6) 助成制度の活用

6 事業の実施状況

(1) 事業概要

①就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況

班名	金額
請負班	6,062,978円
給食班	1,472,800円
計	7,535,778円

(3) 工賃の支給状況

区分	支給計画	支給実績	備考
1人あたり 平均月額	15,000円	15,125円	平均月額は、時間給をベースに算出（総支給額÷総作業時間数×1日の活動時間×日数） 工賃には一時金（年2回）を含む

(4) 就職に向けた取組

就職希望者に対して、就労に向けた取り組みを積極的に行った結果、就労継続支援A型事業所（就労サポートセンターさつき）に採用された。

(5) 余暇支援等

ア 土日開所日（27回）

月	内容
4	◎夏泊半島ツアー(15日) ◎浅所海岸清掃奉仕活動(22日) ※平内町白鳥を守る会主催事業
5	◎県立浅虫水族館見学(13日) ◎夢の森散策(20日) ◎県立郷土館見学(27日)
7	◎地引網体験(8日) ◎バーベキュー体験(15日) ◎三内丸山遺跡見学(22日)
8	◎むつ科学技術館見学(5日)

	◎就サポさつき大運動会参加(19日) ◎県障害者スポーツ大会参加・応援(27日)
9	◎おくわく動物園(移動動物園)見学(3日) ◎お買い物ツアー(野辺地町)(23日)
10	◎ボウリング大会参加(1日) ※アップルワーク主催事業 ◎あおもりホット音楽祭観覧(21日)※青森GH連絡協議会主催事業
11	◎県立三沢航空科学館見学(11日) ◎ねぶたの家ワ・ラッセ見学(25日)
12	◎クリスマス大会観覧(10日)※青森市手をつなぐ育成会主催事業 ◎八甲田丸見学(17日) ◎利用者忘年会(24日)
1	◎利用者新年会(6日) ◎ボウリング大会参加(13日) ※アップルワーク主催事業 ◎県立美術館見学(20日) ◎お買い物ツアー(青森市)(27日)
2	◎青森冬まつり見学(10日)
3	◎夜越山洋ランまつり見学(10日) ◎歓送迎会(24日)

イ 事業所内での余暇支援

運動不足傾向にある方に対して、健康器具を整備し運動を促した。また、利用者からの要望に応える形で将棋や卓球など行えるよう環境を整えた。

ウ その他の余暇支援

共同生活援助事業所スワンハイム主催の利用者向け1泊旅行の実施にあたり、在宅利用者で希望する方の参加調整や旅行中の支援を行った。

(6) 食事(昼食)提供

希望者に対して、当事業所職員が調理する食事を提供した。また、制限食等の希望者には摂取カロリーを制限した特別食を提供した。

なお、毎月開催する給食会議において利用者から要望を伺い給食メニューを作成し提供した。また、メニュー作成にあたり、なつどまり管理栄養士から意見を伺い反映させた。

(7) 送迎体制

送迎車両2台体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
小湊	東和、小湊
狩場沢	口広、清水川、狩場沢、東滝

(8) 実習生の受入

受入期間	人数	学 校 名
5月18日(1日間)	1	青森県立七戸養護学校
6月19日～6月23日(5日間)	1	青森県立七戸養護学校
11月6日～11月17日(10日間)	2	青森県立七戸養護学校

(9) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員(4名)と面談する機会を設けたほか、随時相談を受け体制を整備した。

なお、実施にあたっては、虐待防止対応規程と連動した形で対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(10) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行した。

感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

(11) 安全管理・防災対策

年2回(7月31日、1月31日)避難及び消火訓練を実施したほか、当事業所が火災で避難する必要がある際の近隣住民の協力を得るシステムを構築するなど、利用者の安全確保に努めた。

また、不審者用の対応及びJアラート発信後の対応など各種マニュアルを作成し、非常時の対応に備えた。

(12) 地域貢献・地域交流

ア 平内町白鳥を守る会が主催する浅所海岸清掃奉仕活動(4月22日、10月7日)に利用者及び職員が参加し、会員との交流を図った。

イ 就労サポートセンターさつきと連携し、土日開所日を活用して利用者間の交流を図った。

(13) ボランティアの受入

受入期間	人数	備 考
2月26日	1	男性、作業支援補助

(14) 所内会議等

会議名	回数
就労・生産支援会議	毎月1回
給食会議（利用者）	同上
給食スタッフ会議	同上
事業所会議	同上

(15) 職員研修関係

事業所内での勉強会や事務局主催の研修を始め、県内で実施する各種研修等に員を派遣した。

また、事業運営に必要な資格や支援技術等の向上を図るための専門的な研修にも積極的に派遣した。

(16) 広報関係

事業所リーフレット及び広報紙（年3回発行）を作成し、関係機関及び団体等に配布したほか、ホームページを開設して事業所のPRに努めた。

(17) 助成事業への申請状況

申請先	内容	結果
日本郵便（年賀寄付金配分）	ピンセッター	不採択